

2022年7月1日



月刊

# もぐら通信

2025年7月1日 第157号 初版

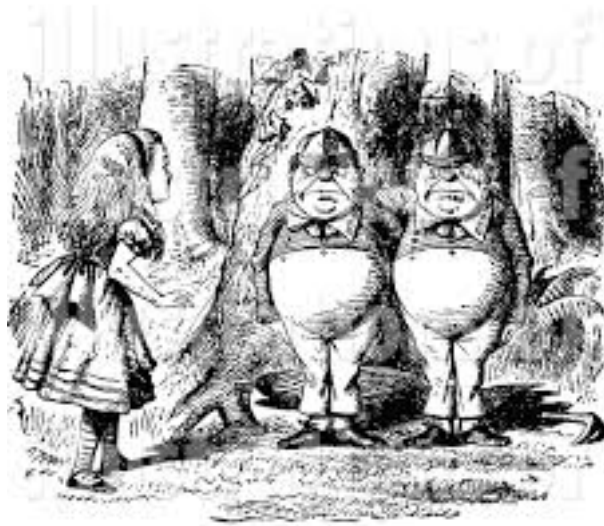
<http://abekobosplace.blogspot.jp>

弱者への愛には、いつも殺意がこめられてゐる

あなたへ：  
迷う事のない迷路を通して  
あなただけの番地に届きます

電話  
042-ABE-KOBO

FAX  
042-KOBO-ABE



## 目次

- 1 目次...page 2
- 2 記録&ニュース&掲示板page 3
- 3 巻頭詩（4 2）：鐘撞きの男：エリザベス・ジェニングス.....page 1 3
- 4 コーボー・ベーシックス **kobo basics**（2）続サーカス2：オートバイ.....page 1 7
- 4 コーボー・ベーシックス **kobo basics**（3）：核シェルター.....page 1 8
- 5 『都市への回路』論（1 2）：⑤マルケスとポー.....page 2 4
- 6 SFで思考するための本棚（6）：古事記SF論.....page 3 0
- 7 第二回読書会記録：『赤い繭』.....page 3 3
- 7 サンチョ・パンサを求めて（2 1）：語学ができるとはどういふことか.....page 3 7
- 8 私の本棚（4 3）：ヤマザキマリ著『壁とともに生きる わたしと「安部公房」』を読む.....page 5 1
- 8 私の本棚（4 4）：深田萌絵著『メタバースがGAFA帝国の世界支配を破壊する』を読む.....page 5 7
- 8 私の本棚（4 5）：西村幸裕著『九条という病』を読む.....page 6 7
- 9 遁走倶楽部（2）：エピチャム語から本邦初の翻訳 S・カルマ氏 [翻訳] 岩田英哉.....page 6 9
- 1 0 日本一極国家論（続篇）：GAME CHANGE理論（6）Intermezzo：文明の衝突篇：ハンチントン著『文明の衝突』からウクライナ問題を考察する.....page 7 0
- 1 1 ネット・モナド論（3 1）：プーチンは何を考へてゐるか3.....page 7 6
- 1 2 カフカの箴言（3）.....page 8 9
- 1 3 糞尿と性愛の文学-生殖器・排泄器同一社会論仮説-（3）：1。古事記の中の糞尿と性愛/1. 1 神武初代天皇の皇后（きさき）の出生譚（2）：待て次号：岩田英哉...page
- 1 4 高天原便り（3）：米粒とエピファニーと古事記とジェイムス・ジョイス.....page 9 0
- 1 5 縄文紀元論：Topologyで日本人を読み解く（3 4）：5.3 6 大祓への第一段落第一行には何が書いてあるのか.....page 9 4
- 1 6 Topologyで日本の文化を解説する：内なる辺境シリーズ（1 2）：扇... page
- 1 8 編集後記...page 9 5
- 1 7 編集方針.....page 9 6

The best tweets of the month

Golden Mole  
Prize

該当なし

Silver Mole  
Prize

該当なし

See new Tweets

Conversation

ヤマザキマリ ( Mari Yamazaki ) 公式 情報用アカウント

@THERMARI1

NHK Eテレ 100分de名著

安部公房“砂の女”

(1) 「“定着”と“流動”のはざままで」

再放送: 6月13日月曜13:05～

(2) 安部公房“砂の女” (2) 「揺らぐアイデンティティ」

初回放送日: 6月13日月曜22:25～

<https://nhk.jp/p/meicho/ts/XZGWL117Y/episode/te/8R3N4NYJJ1/...>

講師 ヤマザキマリ

朗読 町田啓太

MC 伊集院光 安部みちこ

Translate Tweet

nhk.jp

安部公房“砂の女” (2) 「揺らぐアイデンティティ」 - 100分de名著

女の家で一夜を過ごした仁木順平は翌朝外界へ出るための縄ばしごが取り外されているのを発見し驚愕。自分が恐るべき状況に陥ったことに気づく。それはまさにアリ地獄だった 仁木は村人たちによって砂を掻き出す作業員として幽閉されてしまった。彼は

100min\_meicho@100min\_Meicho・Jun 13

#100分de名著 安部公房『砂の女』の第2回「揺らぐアイデンティティ」は本日22:25放送です。どうか外界に脱出しようとする男、外界に出ることなど考えもしない女。両者の違いは何を意味するのか？ 解説は漫画家のヤマザキマリ@THERMARI

さん、朗読は俳優の #町田啓太 さん。テキスト発売中です！



なんな 読書@oopaipoo・Jun 12

安部公房ってめっちゃ四角形みたいな名前じゃない顔はめっちゃ体力ありそうな感じ

初見健一@ken1hatsumi・Jun 14

確か安部公房だかの小説に三日月に追いかける神経症の男の話があったような気がする。その三日月には花王のマークみたいに顔があった気がする。子どもの頃、夜の散歩をしているときなどに「月が追いかけてくる！」という感覚を味わった人は多いと思う。月は今もなぜか君だけを追いかけてくるのだ。

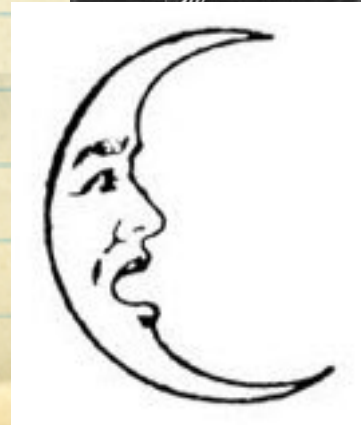


芥子@t2NzG7L0Bm0ezTT・

6m

砂漠の思想 安部公房

「顔は人間の内と外とをむすぶ表玄関である。文章は認識の内と外とをむすぶ表玄関である。人相の上で生理と心理と性格が交錯する。文体の上で言語と認識と表現が交錯する」



不思議少年@fushigishonen・  
2h  
演劇人コンクール2022  
安部公房『鞆』  
演出：大迫旭洋（不思議少年）

出演  
女：七星束子  
客人：天明留理子  
旅行鞆：山本雅幸

会場：江原河畔劇場  
撮影：演劇人コンクール事務局

IZU@m2o123・10h  
波音と砂の性欲浜昼顔  
#kigo #jhaiku



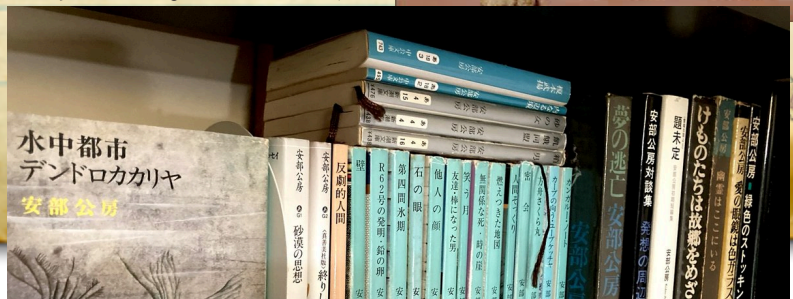
…しかも、その表面が、きめの細かい砂の被膜で、一面におおわれているのだ。砂は細部をかくし、女らしい曲線を誇張して、まるで砂で鍍金(めっき)された、彫像のように見えた。  
(安部公房『砂の女』)

\* 三岸好太郎《海と射光》1934年 福岡市美術館

### 今月の愛読者

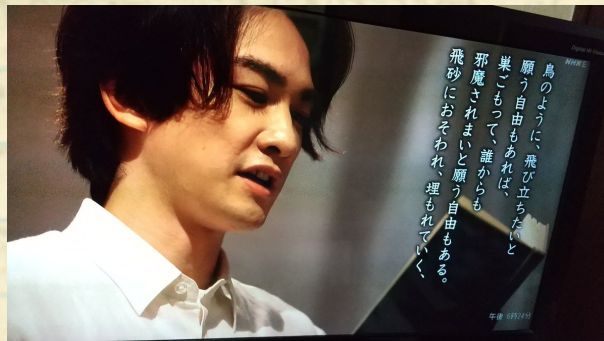
crow@tobeyokashi・Jun 12  
#生涯一作家しか読めないとしたら  
安部公房

家に帰るのは実はあぶなくて、ネコを飼うのではなく、地図はヒトをどこにも導かない。おかしい疑惑クな目にあわないけど。





りね@lvksylv・Jun 13  
安部 公房 #砂の女  
朗読 #町田啓太



古書ノーボ@koshonovo・  
Jun 15

窓枠棚を新潮文庫の安部公房全24冊に入れ替え。状態や刷数は色々ですがセットでの販売です。表紙は18冊目の『笑う月』まで安部真知。



### 今月の全集第16巻

安田中彦@yasudanakahiko・Jun 10

「砂の女」読了。この全集16巻には私の好きな「人魚伝」も載っているので読まなきゃ🐱安部公房は短編が面白い😊



### 今月の当たり前に早熟な安部公房読者

Sticker@syoiti・Jun 11

Replying to @marxindo

中3の時に新潮から出ていた「安部公房全作品」を買ってもらって隅々まで何度も読みました。その時は長編は燃え尽きた地図まで収録されていて、単行本で箱男と密会を買いました。結局、自分にとってはレムと安部公房とボルヘスが最も重要な作家ですが3人とも大体この年齢の頃に読んだ作家です



@info\_nola23h

演劇人コンクール2022@江原河畔劇場

安部公房『鞆』

演出：しおと、ひかり

出演：立蔵葉子／山村麻由美／石松太一

撮影：演劇人コンクール事務局



### 今月のカンガルー・ノートの主人公の読者

upfield\_ex@ex\_Upfield・Jun 11

歯医者さんの時間まで、喫茶フルールで安部公房『砂の女』を読む。朝一は年配客が多いな。

### 今月の高橋源一郎

はじめとまなぶ3

@hajimeTOManabu・Jun 14

095 高橋源一郎の飛ぶ教室

「安部公房『砂の女』にいま学ぶこと」2022年06月03日

ff5f



(黑板入れる)





### 今月の石川淳

三坂 剛@yumenowa・Jun 14

Replying to @1007\_senanes

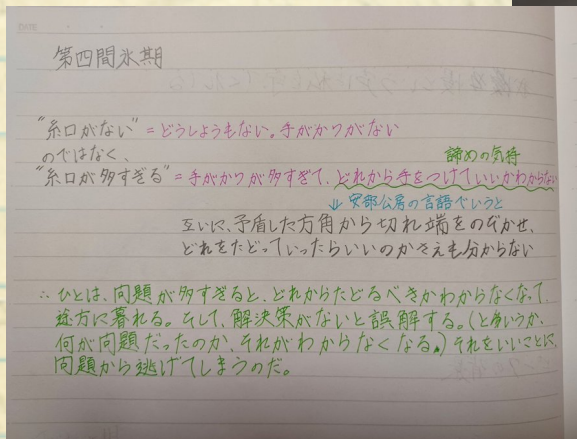
なるほど、確かにユーモアを感じる手跡ですね。文学全集では、福永武彦と中村真一郎とをペアで収録することが多いのですが、この全集では安部公房と組んでるのが面白いです。2人の敬愛する石川淳の月報文を載せておきます。

### 今月の養老孟司との対談

<https://youtu.be/NOAiCyOCX1Q>

きー@7wLANmcueuXmLXt・Jun 15

岡田先生の御本を読んでから、考えをノートにまとめる？書くようにしています。第四間氷期(安部公房作)を読んでよかった部分と、それについて思い浮かんだこと



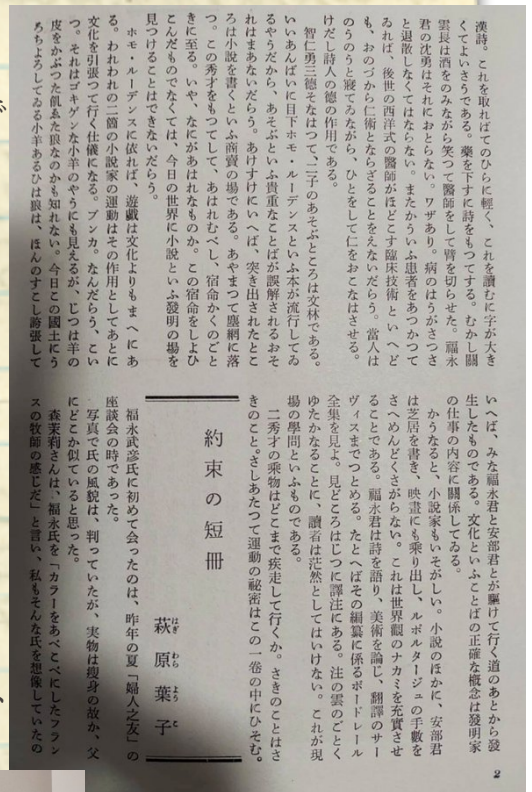
### 今月の読書会

思想・哲学・文学・芸術の会@fmphilosophy335・20h

当会discordでは毎週月曜日の22:25~22:50に文学カフェにてEテレ100分de名著を視聴しながら読書会を行っています。6月は安部公房「砂の女」、読書会終了日は6/27です！感想を分かち合いたい方はぜひ当会discordへ！

<http://discord.gg/jsdEvGp>

#安部公房 #砂の女 #読書会



Haruo Mozu@HaruoMozu・Jun 13

#安部公房 ～ #砂の女 ～：風変わりな設定で、現代人の閉塞感や孤立する不安・あがきといった負の心理を、諦観と希求に収斂させてゆく安部公房の異色作『砂の女』。本日 NHK #Eテレ #100分de名著 午後10:25より安部公房「砂の女」放送。予習復習にどうぞ。📖

**NHKテキスト**  
2022年 6月 ●Eテレ  
月曜日—午後10:25～10:50  
(西)火曜日—午前05:30～05:55  
要週月曜日—午後01:05～01:30

**100分de名著**

**安部公房**  
Abe Kobo

**砂の女**  
The Woman in the Dunes

不条理な「自由」を人はなぜ求めるのか

逃げるか、留まるか。

瀬田宗、文筆家  
**ヤマザキマリ**  
Yamazaki Mari

砂丘へ昆虫採集に来た男が、女のすむ穴蔵に囚われる——。葛藤を抱えて生きる人間存在の有様を究明に突き海外でも高い評価を得た戦後前衛文学の代表作を皮肉の効いたユーモアにじみ出る寓話として読み解く。



**今月の他人の顔**

永田@yedam\_ieeen・Jun 11  
安部公房の他人の顔？

**今月の鞆**

Alizé@us596139791・Jun 10

安部公房の『鞆』という短編を授業で取り上げたらしいんだけど、めちゃくちゃ深い話よね。恥ずかしながらこの話、知りませんでした。



**安部公房『鞆』**  
【自由を選ぶ道がなければ、迷うこともない！】



### 今月の手塚治虫

セイイチ@TR6801・7h

Replying to @moroi55555

手塚治虫は「日本人でもっとも西洋人的な論理構造を有しているのは、三島由紀夫、安部公房、黒澤明だ」と言っていました。三島由紀夫は唯美主義、安部公房は抽象主義、思想的立場からすれば真逆だと思いますが、その複雑な論理過程には共通する面があるとする説は手塚らしい鋭敏な推測ですね。

### 今月の死に急ぐ鯨たち

tamastent☆@tamastent・Jun 14

Replying to @AshiharaHisui

なぜ、書くか

(安部公房さんの、や (単行本or文庫, 「死に急ぐ鯨たち」より

なぜ書くか……

この質問はたぶん倫理的なもので、論理的なものではないはずだ。論理的には質問自体が答えをふくんだ、メビウスの輪である。作家にとって創作は生の一形式であり、単なる選択された結果ではありえない。「なぜ」という問いが「生」の構造の一部であり、生きる理由に解答がありえないように、書く行為にも理由などあるはずがない。

しかし倫理的にはいささかノスタルジーを刺激する質問である。こういう質問が可能(解答の当否は別に)して希望にあふれた時代があったことは否定できない。だが積載量過剰のトラックのような時代をくぐりぬけて、作者は失望し、かつ謙虚になった。死の舞踏でも、下手に踊るよりは上手に踊ったほうがせめてもの慰めである。

夢のなかで幻の越境者が夢を見る……

もぐら文学賞第一回募集要領

もぐら通信の創刊号（2012年9月30日）から数えて来月が丁度10年目です。この10年の節目を記念して、誠に「時知らず者」の安部公房には申し訳ないが（『中壘筆宛書簡第4信』全集第1巻78ページ下段）、敢へて小説の募集をします。

1. 応募期間：2021年9月1日より2022年8月31日まで1年間。発信主義。着信主義ではない。8月31日付の発信は有効です。

2. 送付先メールアドレス：[eiya.iwata@gmail.com](mailto:eiya.iwata@gmail.com)

3. 対象ジャンル：小説

4. 小説の長短：

次の安部公房の短編の量の間のいずれかの量：

(1) 『赤い繭』の量：最小2000文字（400字原稿用紙5枚）

(2) 『魔法のチョーク』の量：最大6300文字（400字原稿用紙16枚）

(\*) コントは対象外とします。

5. 応募条件：

(1) 安部公房の読者

(2) 一人何篇でも応募可。応募のたびに名前を変へること可。

(3) 年齢：不問

(4) 性別：不問

(5) 国籍：不問

(6) 言語：不問。編集部で日本語に翻訳し、原文とともに掲示します。

(7) 提出文書のフォーマット：pdf

(8) かな・漢字：新旧字体不問、正仮名・当用仮名不問

6. 応募名：

(1) 本名を名乗つてはならない。

(2) 安部公房作品の主人公または登場人物の名前を名乗つてはならない。

(3) ネットのハンドル・ネームまたは独自に案出した応募名で可

(4) 最も望ましい応募者は国家に登録されてゐない者である

7. 選考委員：

(1) もぐら通信の全ての読者

(2) 国内外の読者を問はない。

8. 作品の公表：

(1) 編集部には到着後都度読者に配信します

(2) 月毎の配信の号に掲載して応募記録を残します

9. 評価方法・評価基準：

(1) 安部公房の同社としての選考委員の独自の判定基準に委ねる

(2) 採点の範囲は、1点から10点まで

(3) 最終的な判定は、もぐら通信編集員及び発行人が各作品に下す

10. 評価・選考のためのネット選考会月次開催

これは都度案内します

11. 賞金：10万円

最終受賞者の複数ある場合には均等に分割する

12. 将来の展望：

ノーベル文学章の日本円換算1億円以上にします

以上

巻頭詩  
(42)  
鐘撞きの男

エリザベス・ジェニングス  
翻訳 岩田英哉

【原文】

*BELL-RINGER*

The bells renew the town, discover it  
And give it back itself again, the man  
Pulling the rope collects the houses as  
Thoughts gather in the mind unscanned, he is  
Crowding the town together from the night

And making bells the morning, in remote  
Control of every life (for bells shout "Wake"  
And shake out dreams, though it is he who pulls  
The sleep aside). But not into his thought  
Do men continue as in lives of power;

For when each bell is pulled sufficiently  
He never sees himself as any cause  
Or need; the sounds had left his hands to sing  
A meaning for each listening separately,  
A separate meaning for the single choice.

Yet bells retire to silence, need him when  
Time must be shown a lucid interval  
And men look up as if the air were full  
Of birds descending, bells exclaiming in  
His hands but shouting wider than his will.

## 【和訳】

鐘楼の鐘たちが町を新たにして、町を発見して  
そして、再び町を町自身に戻すのだが、鐘撞きの男は  
綱を引きながら、家々を収集してあるといふのは、  
鐘の捕らへ切れない心といふものの中に様々な思ひが集まつてゐるからで、鐘撞  
きの男は、  
町といふものを、夜から、とにかく何でも集めるだけ集めてゐるのだ

そして、朝には鐘といふ鐘を鳴らしながら、遠くに  
どの人の生活をも制禦して（といふのは、鐘は”起きろ”と叫び  
そして体を揺すつて夢から覚醒させるから、といつても引つ張つて  
夢そのものを脇にどけさせるのは鐘撞き男なのであるが）といつても、しかし此  
の男の思ひの中には  
権力の生活の中でのやうには、どんな男たちも入り続けることはないのだ。

といふのは、一つ一つの鐘が十分満足ゆくほどに引つ張らると  
鐘撞き男は自分自身がどんな原因であるとか必要とされてゐるのであるとか  
決して思ふことはないからであり、といふのは、鐘の鳴らすたくさんの響きが男  
の両手に残すものは、  
一つ一つの音色の意味を聞き分けて聞く其の一つ一つの意味を分けて歌ふことで  
あり、  
分けた一つ一つの意味を、これしか無いといふ唯一の選択をして歌ふことだから  
である。

しかし、かくして鐘といふ鐘は隠退して静かになり、鐘が鐘撞き男を必要とする  
のは  
時間が光り輝く間隔であると、衆目に示されねばならない時なのであり、  
それ故に、男たちが鐘楼を見上げると、恰も大気が一杯の  
降りて来る鳥たちで満ちてゐるかの如くに見えてゐて、たくさんの鐘が鐘撞き男  
の  
両手の中で不意に叫び出すかのごとくに、しかし鐘撞き男の意志よりもずっと広  
く響き渡る叫びを上げるかのごとくに見えるのだ。



## 【解釈と鑑賞】

この詩が書けるのは、やはり詩人が女性であるからだと思ひました。

イギリスのBBCの製作したチェスタトンのブラウン神父ものの連作の中に鐘楼で鐘を撞く男の話が出てきて、その垂直に立つ塔の天辺にある空間にどんなにたくさんの鐘があつて高低強弱のさまざまな音色を村中の屋根屋根の上に響かせるものだと思ひ、それが鐘楼の四方窓から町中に鳴り響くのは、この詩の中にあるやうに、定時で（「時間が光り輝く間隔であると、衆目に示されねばならない時なのであり」）しかも日常の人々の生活を始めさせてゐるが（「権力の生活の中で」「遠くにどの人の生活をも制禦して」）、しかし、その鐘を鳴らす鐘撞きの男には、その鐘の力は及ばないのは、第一連にある通りに、夜から昼の中へと「鐘撞きの男は、町といふものを、夜から、とにかく何でも集めるだけ集めてゐる」からであつて、夜の中に眠りの中に町中の家家の心はthe mind、即ちこころといふものにあつて一つのものなのであり、「鐘の捕らへ切れない心といふものの中に様々な思ひが集まつてゐるから」であり、だから「鐘撞きの男は、町といふものを、夜から、とにかく何でも集めるだけ集めてゐるのだ」。さうして、人々は覚醒して一日の生活を始めることができる。

「かくして鐘といふ鐘は隠退して静かになり、」人々は仕事に精を出し、町は隅々まで活気に満ちて、「時間が光り輝く間隔である」。さうして、鐘楼の大小の「鐘といふ鐘は隠退して静かにな」る。次に「時間が光り輝く間隔であると、衆目に示されねばならない時」まで。

かうして、最後の連の最後の三行は、この詩に思ひを鐘楼の鐘撞き男に寄せて歌ふ、最も美しい女性詩人の三行になつてゐます：

それ故に、男たちが鐘楼を見上げると、恰も大気が一杯の降りて来る鳥たちで満ちてゐるかの如くに見えてゐて、たくさんの鐘が鐘撞き男の両手の中で不意に叫び出すかのごとくに、しかし鐘撞き男の意志よりもずっと広く響き渡る叫びを上げるかのごとくに見えるのだ。

この男たちと複数形であるmenは、鐘撞き男とは別の領域にあつて「時間が光り輝く間隔である」領域、昼間の領域に生きて、「権力の生活の中で」、互ひの中へと「入り続ける」男たちのことです。やはり、夜から朝へと”making bells the



morning”（「朝には鐘といふ鐘を鳴ら」）す男は、垂直方向に立つ塔の天辺にみる必要があるのです。権力は地上のものだ。だから、権力ある男たちが上を見上げて鐘楼を見遣ると、「恰も大気が一杯の/降りて来る鳥たちで満ちてあるかの如くに見えてゐ」るのです。それが、日の初め。

少し迷つたあとにあと一つのことを付け加へさせて下さい。トーマス・マンの『選ばれし人』の冒頭のスイスのザンクト・ガレンの修道院の鐘楼の鐘の音です。拙訳します。

「鐘の響き、鐘の音のうねり、supra urbem（街の上に）、そして町の上に、響きに満ち満ちた大気！鐘、鐘、鐘、鐘、跳躍して、揺れて、その梁（はり）に台座に波のやうに揺れに揺れて、百声を上げて、バビロンの混沌を招来してゐる。」

これは、やはり、男の、Mannの、鐘の音です。何故ならば、ジェニングスの鐘とは正反対に、世界に混沌を招来する鐘の音であるから。





## コーボー・ベーシックス

kobo basics  
(2)

## 続サーカス2：オートバイ

岩田英哉

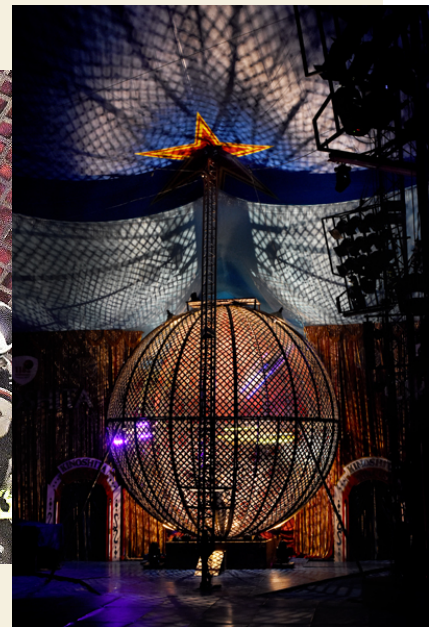
一つ忘れたサーカスの見せ物があつたので追記します。それは、オートバイによる曲芸です。

山口果林著『安部公房とわたし』より、次の二つの箇所を引用します（『第二章 女優と作家』の「地方公演」より）：

「芝居の中核には「人さらい」にさらわれた人々の演じる、サーカス団の演目があるのだが、話の筋もなく、脈絡のない場面が夢の出来事みたいに連なっていく。十人以上入った大きなイモ虫のような黒布の連なりが横断したかと思うと、ミニバイク乗りのふたりのライダーが煙立ちこめる中を疾走していく。暴力的なシンセサイザーの音に重ねて、加工された三篇の「人さらい」の詩がスピーカーから流される。この詩だけが、人間の優しい感覚を刺激して、すがりつきたくなる気分させる。安部公房が「演劇の邪道」を求めて行き着いた場所だった。」

この引用を読んでわかることは、舞台の役者たちは、このミニオートバイによる場面を「サーカス団の演目」だと知つてゐたことです。安部公房が説明したのでせう。

サーカス団の地方公演で私が子供の頃観た多分キグレサーカスのテントの中で見たオートバイの見せ物は次の写真にある球体の中で二人のオートバイ乗りが曲乗りをするものでした。下記の写真は現在の木下サーカスでの出し物のオートバイの曲乗りです。



## コーボー・ベーシックス

kobo basics  
(3)

核シェルター

岩田英哉

前回第二回の続きであれば、『(例馬の話より) 題未定』を構成する二つの要素の一つが前回のサーカスでありますから、この三回目はシャーマンの話になるでせうが、それでは話の展開がありきたりなので、現下のウクライナでの紛争を契機に日本でも遅まきながら話題になつてゐる核ミサイルによる攻撃から、日本の国をではなく(これを論ずるのは政治家と軍人の仕事)、安部公房の読者としてあなた自身の我が身を守るにはどうしたらよいか(これは箱男の仕事)といふ視点から、幾つかの安部公房の言葉を全集より引用して凶事に備へたい。

核ミサイルから我が身を守るといへば、即座に思ひ出すのは『方舟さくら丸』でせう。さうして、しかし、この小説の最後にはやはり主人公のもぐらは、安部公房の主人公の常で閉鎖空間(方舟も閉鎖空間である)を脱出して、地上に出たところが透明な世界であり、自分の手のひらもまた透明であつて「街ぜんたいが生き生きと死んでいた」のである以上、そこはやはり透明な私の世界ではあるのです。ニュートラルな、安部公房の存在の世界の形象です。主人公は透明人間になつた。

といふことは、主人公が透明人間になるといふことは、周囲の世界も「街ぜんたいが生き生きと死んでいた」といふことになるのではないでせうか。遺作『さまざな父』では(勿論、この作品だけではないでせうが)、父親が透明人間になつたのに対して、息子の主人公は空中浮遊ができる能力を獲得するといふ話になつてゐるのは、この論理が働いてゐるからではないのでせうか。父親が透明になつた存在の世界に生きる空飛ぶ息子の話。

安部公房の核シェルター論は非常に簡単明瞭で、核シェルターを所有して其処に籠るといふ考へ其のものが強者の選民思想であり、方舟思想そのものであり、つまりは、マルクス主義にはじまる共産主義思想といふ全体主義思想であるといふ考へですから、核シェルターの使用は拒否するといふものです。『方舟さくら丸』を巡つての藝術新潮の編集者とのインタビュー『核シェルターの中の展覧会』の最後に次のやうに語つてゐる。

「そもそもぼくはシェルターの存在そのものを拒絶しているのだからね。美術はいったい何処に行くつもりなのだろう。」(全集第28巻、119ページ下段)

これが安部公房の結論です。この結論に至るまでのインタビューアとのやりとりの中心は、もし無人島にある人が美術品を持参するとしたら、それは一体何かと



いふ設問を巡つてのやりとりなのです。このやりとりは丁々発止といふ趣きがあつて、非常に良いものですので、一度このインタビューの全体をお読みになることをおすすめします。この編集者も美術に関する造詣の深い方で、鋭い質問を安部公房に次から次へと、安部公房の解答に応じていはば槍のやうに繰り出すのですが、対する安部公房の解答も、その槍の連続的な攻撃を正面から受けて即答するといふ趣きなのです。緊張を孕んだ、実に読み応へのあるやりとりです。

上記に引用した作家の結論の前提は、無人島に携行するものといふ仮定ではなく、作家による提案で、その少し前に「最後にちょっと視点を変えてみよう。無人島はやめて、はじめの『方舟さくら丸』に戻ってみたらどうかな。核シェルターというのは、一時執行を猶予されている死刑囚の監房みたいなものだろ。譬喩としてはむしろ、あと数週間の命だと自覚している癌の末期症状の患者に、何が必要かを問いかけてみることのほうが真相への近道なんじゃないか。残酷すぎてアンケートをとってまわるわけにもいかないから、想像するしかないけど、音楽で慰められることはあっても、美術はかえって苦痛の種になるのじゃないかと思う。」（全集第28巻、118ページ下段）

この後の作家の言葉を読みますと、発言の発想の着眼は何処にあるかといひますと、これはあなたも考へたことが必ずある筈ですが、自分の死後に自分以外の全てがこのまま、たとへ変化しようが、生き残つてゐるといふあり得る、そして想像する、事実です。もしこれをしも事実と呼ぶならば、ですが。

この自分の死後に生き残るものとして現在目の前にあつて死にゆく自分のみるものは何かといへば、それは「自分の死後に生き残るものの象徴を見てしまうのではないか。」といつてゐるやうに、それが自分の死との関係で其れが「死後に生き残る象徴」であるといふ理解の元に、美術品は「ただ過去形でしか語れない時間だということ。未来を読み取るための地図としてはあまり役に立たないね。」と言つてゐます。このやうな地図ではない地図の一つとして、私たちは『燃えつきた地図』といふ作品を知つてゐる。

この、現在目の前にあつて死にゆく自分のみるものは何かといへば、それは「自分の死後に生き残るものの象徴を見てしまうのではないか。」といつてゐる安部公房の発言を見て、私は安部公房の処女作『終りし道の標べに』に頻発する、さうして高校生時代の哲学の親しき友中埜肇宛の手紙にある通りの、「存在象徴」といふ言葉を思ひ出します。安部公房の初心は生きてゐる。このインタビューのされた1985年はプラザ合意〔註1〕に端を発して当時日本経済のバブルのど真ん中の年で、村上春樹の『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』の出た年である。



[註1]

「プラザ合意(ぶらざごうい)

プラザ合意とは1985年9月22日米国ニューヨークのプラザホテルで開かれ、G5の大蔵大臣（米国は財務長官）と中央銀行総裁が合意した為替レートの安定化策のことを言います。主な合意内容は、各国の外国為替市場の協調介入によりドル高を是正しアメリカの貿易赤字を削減することで、アメリカの輸出競争力を高める狙いもありました。日本ではプラザ合意後の急速な円高による低金利政策はその後も継続されることで不動産の過剰流動性がおき不動産バブルを引き起こすことになりました。」 ([https://www.tokaitokyo.co.jp/kantan/term/detail\\_1341.html](https://www.tokaitokyo.co.jp/kantan/term/detail_1341.html))

このような時代の真ん中で、安部公房は方舟と、自分を含めた人間の死についてこのように考へてゐた。

『終りし道の標べに』には次の引用に類する表現がたくさん繰り返していはれてゐますが、その例を一つ。

「やっとな微かに浮かんで来る忘却の追憶から、唯《斯く在る》を存在象徴として想わねばならぬとは……。」（全集第1巻、289ページ下段）

「唯《斯く在る》を存在象徴として想」ひ出すとは、既に今周囲にある事物を皆、自分の死を前提に、自分の死後も生き残る事物として即ち「存在象徴」として思ひ出すことだと解ります。現在の時間の中で今ある事物を過去のものとしてみるといふことです。これは既にあちこちで論じて来たやうに、安部公房の超越論なのです。《斯く在る》の両端の記号《 》は、安部公房の存在論の記号であることは、これも初期安部公房論にて詳細に論証した通りです [註2]。

[註2]

初期安部公房については『安部公房の初期作品に頻出する「転身」といふ語について』（もぐら通信第56号から第59号）をお読み下さい。この「転身」の過程をtopologicalに詳述しました。

また、「核シェルターというのは、一時執行を猶予されている死刑囚の監房みたいなものだろ。」といふ発言には、1970年代に安部公房スタジオの役者たちに最高の演技の例として話した、閉鎖空間または独房に一つ椅子があつて其処に座つてゐる死刑執行5分前の死刑囚がさうであるといふ演技論が、ここでも方舟といふ閉鎖空間と死ぬといふこととの関係で説かれてゐます。この形象は初期安部公房から執拗に絶えることなく現れる安部公房の人生観の本質ともいふべき形象です。



## 例1：処女作『終りし道の標に』

「部屋はふたたび取残されたようにひっそりする。まるで手に触れられる物体の様に、頬に、唇に、目に感じる静けさだった。

丁度手術台に載せられて、長い廊下を右へ左へと引き廻された後、ふと一切の時間が絶切れたように車が止り、突如固定した静寂の中に投げ出される。そんな気持ちだった。」（全集第1巻、298ページ上段）

この形象はそのまま最後の長編『カンガルー・ノート』に継承されてゐる。

## 例2：『魔法のチョーク』の冒頭の最初の段落

「雨もりと料理の湯気で、ぶよぶよになった場末のアパートの便所の隣で、貧しい画家のアルゴン君が住んでいた。

三メートル四方の小さな部屋に似合わず、ひろびろと見えるのは、壁ぎわによせて置かれた椅子が一つあるだけで、ほかになんにもなかったからである。机も本棚も、絵具箱や画架さえも売り払ってパンに代えた。今残っているのはその椅子とアルゴン君との二つだけ。しかしこの二つもいつまで残っていられることか？」（全集第2巻、409ページ上段）

## 例3：安部公房スタジオ時代の『再び肉体表現における、ニュートラルなものを持つ意味について。——周辺飛行18

「誤解を覚悟のうえで、あえて極端な例をひいてみよう。たとえば、処刑十分前の死刑囚の独房を、秘密の覗き穴からのぞく機会を得たとして、君はその十分間をけっして長くは感じないはずである。たぶん、いくら眺めつづけていても、見飽きることはないだろう。しかし、その同じ設定を、俳優が舞台上で演じた場合は、はたして十分間の凝視に耐えうるだろうか。つまり、ぼくが問題にしているのは、俳優の上手、下手ではなく、この死刑囚と俳優との間にはだかつているあまりにも深い溝のことなのである。」（全集第24巻、147ページ上段）

## 例4：最後の長編小説『カンガルー・ノート』：地獄巡りに出発する最初の閉鎖空間：上記例1の引用を参照下さい。

「変な手術室だ。タイルはおろか仕上げのモルタルも塗っていない、コンクリート打ちっぱなしの車庫みたいな空間。（略）どこにも窓がない。明かりは天井の大きすぎる蛍光灯だけ、車庫でなければ、拷問室の感じだ。しかしベッドだけは本格的である。」（全集第29巻、89ページ）

これらの孤独な閉鎖空間があつて、さて此の核の時代に核シェルターを個人が一人一人生き残るために用意して「個人レベルでの生き延び作戦を開始した以上、他人の死になんかかまっではいられないんだ。問題は自分が生きるか死ぬかだかだろう。ただシェルターの収容能力に余裕がある場合は、仲間のことは考えてや



るだろうね。」といつてから、『方舟さくら丸』は「ちょうどそういう状況からはじまる」話だといつて、その後でこの小説の主題といふか、むしろ動機、これは筆者の執筆動機であると同時に登場人物たちの生きる動機といふべき動機について次のやうに続けます。

「そう、[主人公が] 生き延びるに価いする人間を集めようとするわけだ。ここで二つの大きな問題が発生する。一つは人間の選別、いま一つは防衛さ。」

この発言は実に私たち人間の弱点といふか急所を突いてみると私は思ふが、如何か。そしてここからが誠に安部公房らしい論理的な、無機的な、機械的に硬質な、即ち散文的な論理を展開して次のやうにいふ。

「次は選別。シェルターの収容能力がある程度以上あれば、どうしても収容するに足る人間を選別、審査しなければならなくなる。未来のための遺伝子バンクだからね。

——シェルターそのものがファシズムのシンボルということですね。

安部 そう、何処かにファシストという特別な人種がいるわけじゃないんだ。シェルター、もしくはシェルターへの入場券さえ手に入れば、君でも、ぼくでも、あなたでも、その瞬間から立派なファシストさ。

(略)

昔からある話だけど、筏が一つあって、溺れかけた人間が二人いる。しかしその筏には一人しか乗れない。二人乗ったら沈んでしまう筏だ。どうすればいいだろう。いっぼうが自己犠牲を發揮して、どうか君が生きてくれ、おれは死んでもかまわない、ということになるのか、それとも殺し合いになってしまうのか、どちらかしかないわけだろ。

——可能性としてはそうでしょうね。

安部 でも、あるんだよ。第三の選択が。二人とも死んでしまうのさ。非現実的にとられるかな。でもそれしかないだろう、殺すことも、殺されることも拒否しようと思えば、二人とも死ぬしかないんだ。」(全集第27巻、173ページ)

これが、最小限生きるか死ぬかの人間が二人である場合の、核シェルターへの乗船の有無・可否・適否・当否をめぐる、ファシストに個人が、即ち、あなたがファシストにならぬための選択、それが、これです。

いふまでもないことですが、日本の国民が皆個人個人で此の選択をしたら、日本の国は滅びます。しかし、また安部公房は実に絶妙なセリフの穂をを継ぐのです。

「なぜ核戦争が起きるのか。国家が意思決定をする可能性があるからでしょう。考えてみると国家自身の一つのシェルターなんだよね、国家そのものが。」

(全集第27巻、 173ページ下段)



といふことは、個人の話が国家の話に水準・レベルを上げると、これは国家が生き延びるための方舟思想と選民思想の話となる。

勿論、私たち日本人の太古・古代からの縄文思想は二項対立の否定をすることによつて第三の道を解決として求める超越論ですから、今からでも遅くはないので、この第三の国家としての道を探求するのが私たちの、それも近代西欧米の野蛮なとても文明と呼ぶに値しない文明に対抗して編み出さねばならない思想なのです。さう、個人の水準・レベルの生き抜くための第三の道を求める方途と同期をとりながら。そのやうな道を求めるのです・

安部公房の話は尽きませんが、一度このインタビューの全体を通して読むことをおすすめします。ことに、今はヨーロッパの東欧の、本来緩衝地帯であるべき筈の地域で、ダボス会議は第三次世界大戦の勃発を前提にし目的にして、ウクライナとロシアの局地的戦争が起こしてゐるわけですから。ロシアの立場はかつての日本の立場であり、ウクライナの立場は今の日本の立場である。といふことになつてゐて、私たち国民一人一人と国家といふ人間の組織の最大の組織の生き残りを懸けて考へ抜き、考へ抜いたことを日々実行しなければならない素晴らしい時代であるからです。



## 『都市への回路』論

(12)

## ⑤マルケスとポー

岩田英哉

ここまで書いてきて、この先の道を迷子にならぬために、最初の起点である目次に戻って現在位置を確認してから続けます。目次は次のものでした。青字がこれまで論じて来た項目、赤字が今回論じる項目、黒字はこれからのものです。

## (1) 小説『密会』をめぐって[聴覚の小説『密会』]

- ①病院という舞台
- ②強者と弱者
- ③逆進化の逆説
- ④現代小説の陥穽
- ⑤マルケスとポー

## (2) 演劇について

- ①アメリカの『友達』
- ②演劇の現代
- ③夢と俳優
- ④デジタルとアナログ

## (3) 写真について[視覚の小説『箱男』]

- ①写真について
- ②覗きの構造
- ③廃棄物
- ④盗聴とセックス

## (4) 音の領域

- ①音楽の時間
- ②抒情の効果

## (5) 都市に向って

- ①花田清輝



安部公房の考へるマルケスとポーの共通項は、前回の「『都市への回路』論（11）：4 現代小説の陥穽：作者・読者論」にて論じた通りに安部公房の持論である「作者・読者論」、即ち「わたしの中の「わたし」」論です。

さうして、この安部公房固有の「作者・読者論」を、作家と読者の意志といふ観点から、次のやうにこの二人の作家の共通項を解説してゐる。

### 1。マルケスについて

（1）「書くということがなぜ作者の中で成り立ったのか、成り立たせているのかという依りどころを失わずに、しかも非常に構造的に、「なぜ読むのか」という問いに対する答えも出していると思う。」

これは、安部公房の作家としての倫理と道徳に触れてゐるといふのは、これまでの考察によつて、安部公房にとつては、嘘をつかないといふことが大事なことからです。即ち、真っ赤な嘘といふ嘘が世俗で平然と人のつく嘘であるとすれば、非俗の、俗をすつかり離れた謂はば真っ白な嘘、即ち真実の虚構が其処には存在してゐるといふことを言つてゐるのです。真実の虚構といふところに小説の値打ちがある。透明人間になつたり、人間が空を飛んだり、スプーンを曲げたり。

もう一つ此の発言で重要なことは、何故書くのかといふ問に対する答えが、同時に「「なぜ読むのか」という問いに対する答えも出している」といふことです。これはコインの表裏一体の事柄だといつてゐるのです。前者の答へが後者の答へ、後者の答へが前者の答へといふわけです。

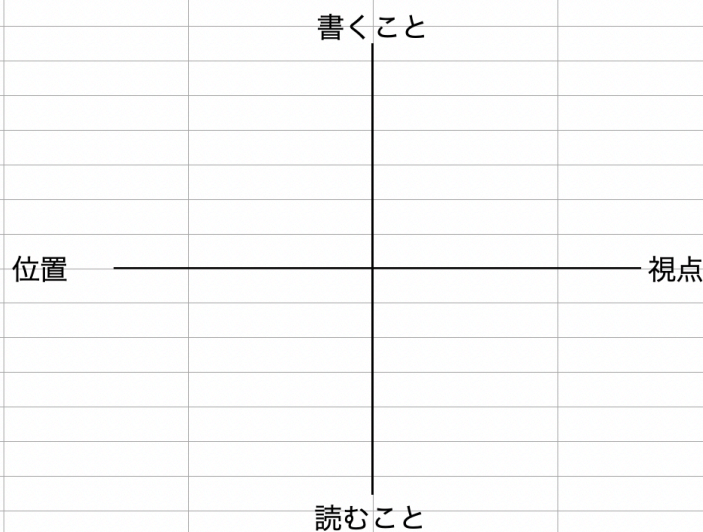
さて、さうして、このやうにして作家の生み出す此の真実の虚構といふことに大いに関係のあることを、この作家は続けてかういふのです。これは、そのやうな虚構の世界にあつて、作者が何処に立つてゐてもものを書いてゐるのかといふ作者の位置と視点の問題です。即ち、作家が何処に立つてゐて、どんな視点でもものを書いてゐるのかといふことです。この二つの位置と視点の関係は、因果律によるものではなく、どちらも等価であつて即ちどちらも先でありどちらも後であり、どちらも後でも先でもないといふ関係です。位置は視点を決め、視点は位置を決めるからです。安部公房はかういつてゐる。これもまたコインの表裏一体の問題である。となると、安部公房の論ずる座標はまたしてもこのやうな座標で表すことができる。

2022/06/11

eiya iwata

## 安部公房の書き・読みと作者の位置・視点の関係

この座標はすべて安部公房といふ作者の「私の中の「私」」の中に存在する座標であるといふことです。従ひ、またしても、二つの座標軸の交差点は、**存在の交差点**であるといふことです。そして此の交差点が作家の位置と視点の表裏一体となつた場所 (topos) なのです。



さて、上記の座標を念頭に読解を続けます。

(2) 「「昔むかしあるところに」と言ってしまうと、作者が神様になってしまうけれど、あの作品 [マルケスの『百年の孤独』] はそうじゃない。年代記風になっているけれど、作者は超越した存在ではなく、書かれている世界と同じ次元に自分を埋め込んでいる。ラストのところで、残っていた文章を、息子の息子みたいなのが翻訳している。その文章の中に、予言として自分自身のこと書かれている。これを解きほぐして読んだ人間も滅びてしまう。読み終わったときどうなるかまで、ちゃんと書いてある。そうすることによって、作者が逃げていないんだな。しかも、いわゆる現代の小説が落ち込んでしまう一種の方法主義というか、そういうものの中にも落ち込んでいない。現代小説が持っているむずかしい問題に答えた作品だと思うね。」

(『都市への回路』の「小説『密会』をめぐって」の章全集第26巻、202ページ上段)

この言葉を読んで理解したところを言ひ換へると、作者自身がメビウスの環になること、この状態が上掲座標の交差点であり、この交差点に立つことだと、安部公房は言つてゐることになります。如何。これが「作者が逃げていない」といふことであり、「現代の小説の落ち込んでしまう一種の方法主義というか、そういうものの中にも落ち込んでいない」といふこと的位置であり視点である。この座標の、存在の交差点に立つてものを視ることが「現代小説が持っているむずかしい問題に答えた作品」を書くための絶対的な条件なのです。この条件の実現したマルケスの『百年の孤独』、マルケス論の最後に、古典的な方法（「昔々あるところに。。。で始めるお話」と「現代小説の方法」の「両方の構造のむずかしさを、ちゃんと考慮に入れているから」成功した小説であり、「とにかく天才的な直感、飛躍と同時に、ものすごい力業（ちからわざ）でそれを再統一した感じがする。」と「驚嘆させられるが」といつて、安部公房には珍しく手放しで褒め讃へてゐます。こんな褒め方をする作家は、カフカ、エリアス・カネッティ、それにエドガー・アラン・ポーとルイス・キャロル位でありませう。あつ、もう一人ゐました。ドストエフスキーです。そして、詩の世界ではライナー・マリア・リルケ。哲学の世界ならばニーチェです。これらが、安部公房文学の骨格と血肉を養つた作家たちです。

## 2. ポーについて

インタヴューは、マルケスに続いてポーを取り上げて話題にし、安部公房の小説と推理小説の形式と、安部公房が「そのような形式の原型として、しばしばポーを引き合いに出」すことの説明を求め、ポーもまたマルケス同様に「なぜ読むか」という問いにうまく答えているということですか。」と質問して、インタヴューを続けてゐる。

安部公房の答へは、当然この質問を肯定してゐるのは、マルケスに関する解説と同じ構造、即ち上掲の座標の存在の交差点に神話の構造が宿つてゐるからです。しかし、ここまで御先走りをする前に、もう少し此の作家のいふところに耳を傾けてみませう。すると解ることは、安部公房はポーについては、「他人とのコミュニケーションがものすごく困難だという意識から、「なぜ読むのか」という一番の基本に何度でもつかかかっていく。」ことに其の作品の長所を求めてゐる。「つかかかっていく」とは挑戦する、試行錯誤する、即ちもつと云へば、上掲座標の交差点になり、自分といふものを消滅させてメビウスの環の接続そのものになつてしまふことと理解して良いでせう。その結果生まれるものが、ポーの場合には、ポーの発明した探偵小説といふ小説の構造、「それがなぜか神話の構造に似ているんだね。」といふことになるのです。

安部公房の発言を読むと、ポーの精神は科学の探究の精神であつて、合理主義であるといつてゐる。「あの人の底に流れてゐるものは、合理主義なんだ。」即ち、あなたが病気になつたとして、ポーの求めるものは、「呪術じゃなくて医者にみせなければいけない」といふことであり、あなたが何かの犯罪に遭遇した場合には、「犯罪なら犯罪というのは、宗教裁判じゃなく、探偵の手に[事件の解決は]渡るわけだ。」といふ世界であり、いはば其れは「いまの目から見れば、警察とか探偵に対して信頼を置くというのはおかしいんだけど、物的証拠という動かし難いものが媒介になつて、犯罪なら犯罪に新しい意味づけが生ずる。」からです。この新しい意味付けのことを宗教的な解決から科学的な解決への移行と捉へると、この移行またはズラすこと、その後者の世界に生まれるもの、「それがなぜか神話の構造に似ているんだね。」といふのである。

この神話の構造と安部公房の、これまでも繰り返し言及する構造が、「なぜ読むのか」「読むと惹きつけられる要素は何か」という問いに対する答へであると、安部公房は言つてゐる。この間に対する答が、存在の交差点に実際にある(例：マルケスの『百年の孤独』、カフカの小説、ポーの小説、ルイス・キャロルの小説等々の)小説と、これから書かれる「地球儀に住む」作家[註1]として執筆する総ての作家たちの存在論の交差点で生まれる小説、即ち象徴的な意義に於いていふ『第四間氷期』といふ真の虚構の成り立つ秘密の鍵である。と、さう安部公房は言つてゐるのです。さうして、次の此のポー論に関する最後の発言を読むと、このポーの小説は、安部公房の小説観である「仮説設定の文学」観であることがよくわかります。

[註1]

安部公房のエッセイに『地球儀に住むガルシア・マルケス』があり、ここでもマルケスを、世界史の中での政治と文学に関する文明論の視点から論じてゐるのでご一読下さい。このマルケスへの文学論は、そのまま穂を継いで、しかし継ぎ目なしに、そのまま安部公房の言語・文学論、即ちデジタル変換とアナログ変換の言語藝術論になつてゐます。

この小説観が「物的証拠という動かし難いものが媒介になる」といふこと、これが読者が「なぜ読むのか」、読者が「読むと惹きつけられる要素は何か」という問いに対する答へである。仮説設定の文学の、安部公房の汎神論的存在論の二重写しの世界、即ち二重鉤括弧の存在の世界(仮説設定の文学の存在の世界)と此の存在論の記号を取り払つた世界(日常の時間の中の現存在の世界)の此の二重写しの言語の世界の在り方が、ポーの探偵小説の場合には、その科

学性と合理主義によつて成立してあるといふのです。安部公房の語彙と用語を使つて、この作家のいふ「神話の構造」の意義を紐解けば、以上のやうになります。直接作家の言葉を引用しませう。

「探偵小説がなぜ人を惹きつけるかという、基本的には、探偵小説がある非常に神話的な構造を持っているということがある。そしてポーは、それをわれわれの日常的で即物的な合理性を裏切らずに〔引用者：これが「物的証拠」といふこと〕展開するわけだ。たとえば物的証拠というものが出てくるけれど、物的証拠という考え方自身が、近代の合理精神だろう。やはり、ポーが読者を惹きつける惹きつけ方というのは、非常に根源的なものだと思うよ。「幽霊の代りに探偵を」というのが、ポーの勝利だったと思う、それを成立させたといふことがね。」（全集第26巻、202ページ下段から203ページ上段）

「幽霊の代りに探偵を」といふ一種のキャッチ・フレーズめいた言ひ方から、あなたは即座に戯曲『幽霊はここにいる』を思ひ出すことせう。

かうして、安部公房の座標にいふ、「わたしの中の「わたし」」といふ二重写しの汎神論的存在論の世界での、意識と無意識の一つになつたコインの裏表である書くことと読むことに関する立場と視点は如何なるものであるかと云へば、それは、以上の如きものであるのです。

キーワードは、やはり、存在の交差点といふことになるでせう。

さうして、ここで、初期安部公房の20歳の哲学論文『詩と詩人（意識と無意識）』（全集第1巻）を読むことを、あなたにおすすめます。

## SFで思考するための本棚

## (6)

## 古事記SF論またはSF古事記論

岩田英哉

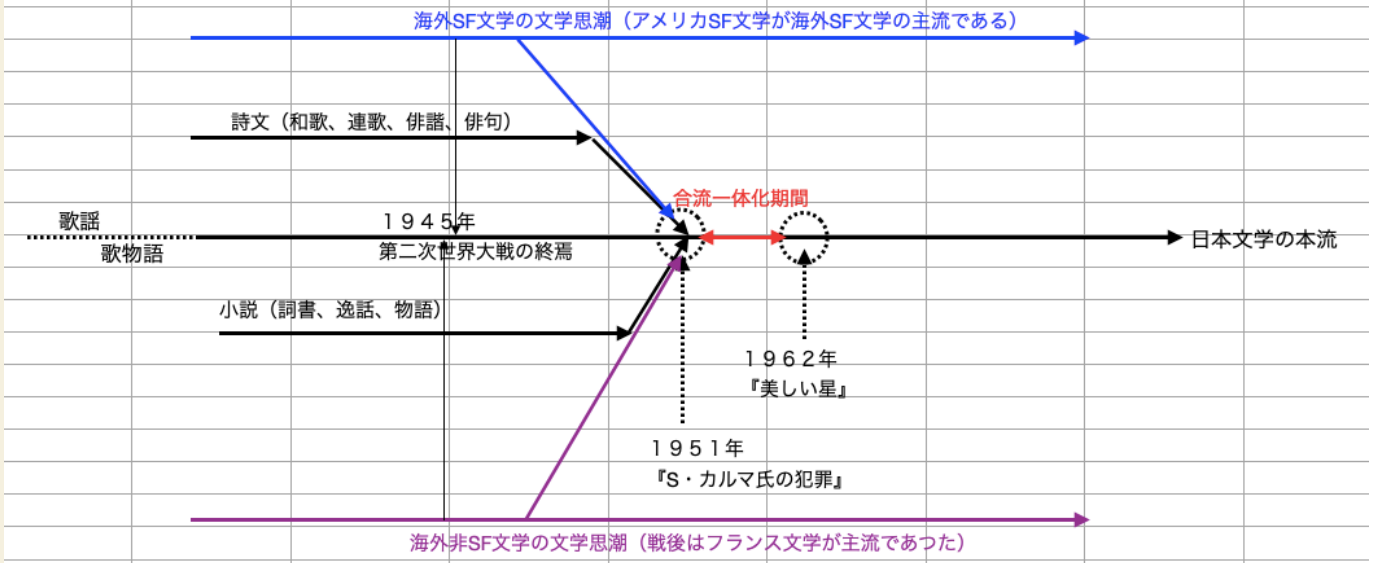
荒卷義雄著『SFする思考 荒卷義雄評論集成』の「第五章 私の修業時代【CORE】」の「別のSF史」の最初の節「I SF史は唯一ではない」は次の段落で始まつてゐる（同書698ページ下段）。

「今、私の頭の中には二〇世紀文学は、SFを軸として再編成され得るだろうか——という想念がある。もし、それが可能ならば、SFを二〇世紀文学史の中に位置づけることも可能になるからである。」そして、このあとにSF文学史に残る「スウィフト、ヴェルヌ、ウェルズ」の名を挙げて、これらをいはゆる「世界文学史の傍流の系列」と位置付けて、即ち、やはり古典的な文学からみた世界文学史にあつても、上記3作家に始まる系列の文学であるSF文学を支流と見なされることに異議を唱へて、さういふ本流支流といふやうな分け方ではなく、独立した一つの文学範疇として「別のSF史を新たに想定」することを主張して、「繰り返すが、SF史とはただ一つではないのではないか。」と読者に問ふてゐる。あるいは、自問自答してゐる。

私の此の章は、この問を全面的に肯（う）べなふものである。さうして、私の文学史は特別な文学としてSF文学があるのではなく、それどころか今や、さう、安部公房と三島由紀夫のそれぞれの著した『第四間氷期』（1958年）から『美しい星』（1962年）の間に日本の文学史がSF文学史と一つになつて、更にそれどころか、安部公房の文学観である「仮説設定の文学」といふ世界普遍性のある文学観によつて、SF文学といふ文学範疇に従来の文学が皆一つになることによつてSF文学が全体となり、それまでのいはゆる純文学が部分となつて、前者が単に一般名詞で文学と呼ばれ、後者が同様に一般名詞で単に文学と呼ばれることになつて一つになつたといふことは、『二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック：塔の文学』（通称「塔の文学論」。もぐら通信第118号から第136号）で明らかにしたことです。その間の消息を図解したのがこの年表図です（『二十一世紀の日本文学のためのスケッチ・ブック（12）：安部公房の塔と倉橋由美子の塔（2）』第132号）。

2021/02/03  
Eiya iwata

二十一世紀の日本文学史  
(SF文学と日本文学との合流一体化の文学史)



日本の文学史にあつては『第四間氷期』（1958）と『美しい星』（1962）の間に、いはゆる純文学の範疇では、大江健三郎が『飼育』で芥川賞を受賞し（1958年）、倉橋由美子が『パルタイ』で芥川賞候補になつて登場してゐる（1960年）。また1962年は、安部公房が前年度9月に日本共産党を除名された後、名作『砂の女』（同年6月）を発表した年でもあります。同じ時期のSF文学の勃興の様子と其の活況を呈してゐた時代についてはWikipediaを参照下さい [註1]。

[註1]

「現在の日本SFに連なる流れは、戦後、進駐軍の兵士の読んでいたペーパーバックが古書店に並び、その影響の下に再開された。1954年には日本初のSF雑誌〈星雲〉が刊行された（創刊一号のみ）。その後、様々なSF叢書・シリーズが刊行されはじめた。

1960年の前後に、SF同人誌〈宇宙塵〉の創刊（1957年）、早川書房の発行する〈S-Fマガジン〉の創刊（1959年）、第1回日本SF大会の開催（1962年）が続き、本格的な日本SFが立ち上がった。SFマガジンでは日本人作家特集を刊行したが、いまだ日本のSF作家が存在しない時代だったため、佐野洋、高橋泰邦など既存の推理作家に原稿を依頼したばかりでなく初代編集長の福島正実みずから執筆している[31]。戦後初の本格的なSF長編が、今日泊亜蘭の『刈得ざる種』

（1962年。のち『光の塔』と改題）である。（ただし、『光の塔』以前にも1953年の丘美丈二郎『鉛の小函』などの長編作品は存在する）

〈S-Fマガジン〉で募集されたハヤカワ・SFコンテストからは、小松左京・筒井康隆・半村良・光瀬龍・平井和正・豊田有恒らが次々とデビュー。早川書房が発行する雑誌・書籍以外でも、眉村卓・星新一・今日泊亜蘭らがSF作品を発表した。

これらの作家は、欧米のSFの影響を受けながら、それぞれに特徴ある作風で日本独自のSFを展開していった。1960年代から活躍した彼らを「日本SF作家第一世代」と呼ぶ。

また平井和正、豊田有恒、柴野拓美などは、SF漫画の原作やSFアニメの脚本やSF考証などを手がけ、小説に留まらない活躍をした。なお、漫画家の手塚治虫が戦後スタートさせたストーリー漫画の多くがSF物であったため、これに影響を受けた作家も多く（小松左京、筒井康隆など）、小松左京は著書『SF魂』の中で、当時の日本SF界の状況を以下のように表現している[32]。

漫画星雲の手塚治虫星系の近くにSF惑星が発見され、星新一宇宙船船長が偵察、矢野徹教官が柴野拓美教官とともに入植者を養成、それで光瀬龍パイロットが着陸、福島正美技師が測量して青写真を作成、いちやく小松左京ブルドーザーが整地して、そこに眉村卓貨物列車が資材を運び、石川喬司新聞発刊、半村良酒場開店、筒井康隆スポーツカーが走り…

また、江戸川乱歩は必ずしも系統だてたSFの紹介者ではなかったものの、戦前より続く探偵小説と空想科学小説の縁などもあり、この分野への理解を示し、盟友大下宇陀児らとともに自身の経営する雑誌『宝石』で星新一、筒井康隆ら新人を積極的に紹介した。

さらに、矢野徹・野田昌宏・浅倉久志・伊藤典夫らの優秀な翻訳家は、欧米の優れたSFを紹介するだけでなく、どういうSFが面白いのかという点でオピニオン・リーダーとしての役割を果たした。また、〈S-Fマガジン〉初代編集長の福島正実は雑誌編集だけでなく、翻訳や創作も手がけ、日本SFの普及に努めた。」

(<https://ja.wikipedia.org/wiki/サイエンス・フィクション#戦後>)

さて、塔の文学論の成果を基礎にして、次のような順序で荒巻氏の設問に肯定的に答へたい。

- 1。小説とは何か
- 2。写実主義（西欧の近代の文学）とは何か
- 3。SF文学とは何か
- 4。哲学的批評を内蔵した和歌物語

(続き)



## 第二回読書会

### 『赤い繭』

岩田英哉

以下、後世の安部公房の読者のために記録を残します。

- 1。日時：2022年（令和4年）5月22日（日）
- 2。場所：Zoomを利用したネット上にて
- 3。出席者：当初5名。途中退席者あり。
- 4。読書作品：赤い繭（全集第2巻、492ページ）
- 5。資料：以下の二種類の資料を編集部は用意。これをもとに会の進行を測つた。その間質疑その他の発言は自由に行はれた。
  - 5.1 安部公房自身による此の作品に対する発表時の後書きの言葉及び後年になつての回想の言葉

#### 発表時の後書きの言葉

あとがき——『壁』

この三篇は、三部作と断ってありますとおり、だいたい一貫した意図によって書かれたものです。壁というのはその方法論にはかなりません。壁がいかにか人間を絶望させるかというより、壁がいかにか人間の精神のよき運動となり、人間を健康な笑いにさそうかということを示すのが目的でした。しかしこれを書いてから、壁にも階級があることを、そしてこの壁があまりにも小市民的でありすぎたことを思い、いささか悔ますにはいられませんでした。

## あとがき——『壁』

この三篇は、三部作と断ってありますとおり、だいたい一貫した意図によって書かれたものです。壁というのはその方法論にはほかありません。壁がいかに人間を絶望させるかというより、壁がいかに人間の精神のよき運動となり、人間を健康な笑いにさそうかということを示すのが目的でした。しかしこれを書いてから、壁にも階級があることを、そしてこの壁があまりにも小市民的でありすぎたことを思い、いささか悔まずにはいられませんでした。

「S・カルマ氏の犯罪」は近代文学二月号（二十六年）、「バベルの塔の理」は人間五月号（二十六年）、「赤い藪」のうち、「事業」のほかは人間十二月号（二十五年）発表です。事業は未発表です。石川淳さんの立派な序文をいただき、桂川君、勅使河原君にそれぞれ挿絵と装幀に協力していただき、月曜書房の方々の努力によって、この本が出来たことをそれぞれに感謝いたします。

一九五一年五月十九日

後年になつての回想の言葉

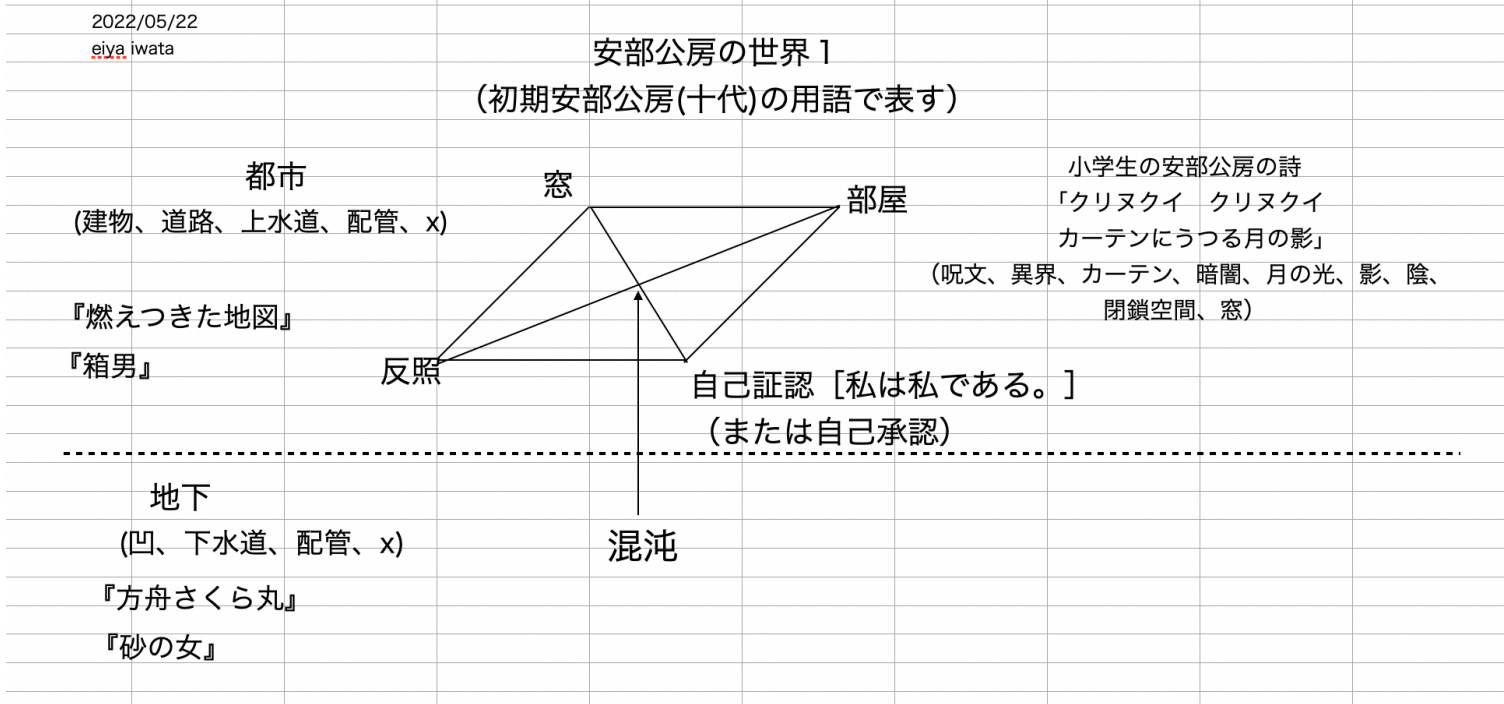
覚え書——『赤い蔦』

当時ぼくは極貧の中にいた。そのくせ、ほとんど貧しさを自覚しなかった。貧乏はまるで自分の皮膚のように、自然にぼくの輪郭になっていた。

ぼくはたぶん、その貧しさを紡ぐようにして作品を書いたの

だ。とりわけ、この「赤い蔦」は、そのままぼくの分身のように思われる。作者は、そのたびに、作品の中で自殺しなければならぬものらしい。

2. 安部公房の世界 1



上掲の図に少しく解説をします。初期安部公房の世界は上記にある四つの言葉で出来てみました。その後小説家として世に出てからも、構造はこのままであり、四つの語彙は異なる語彙になっても四つの言葉の関係は同じです。

1. 窓
2. 反照
3. 部屋
4. 自己証認

これらのうちの1の窓は説明不要でせう。箱男の窓を思ひ出して下さい。

2の反照は窓から眺める景色のことです。世界と言つても良い。カメラの好きな安部公房の世界です。

3の部屋は、一般化して閉鎖空間と安部公房自身が後年言つてみますから、これはこの部屋であり、箱男の被る箱がさうだといへば、これも読者には理解されることとせう。

4の自己証認といふ言葉は少し一見むつかしさうですが、さうではありません。私は私であるといふ文を口から発声しまたは頭の中で作文することです。俗にいふ自己の存在証明といふこと、あるいは自己が存在してゐるといふ証明を他者が承認するといふこと。これを「私の中の「私」」といふ話法で問題を解決したのが安部公房の小説でありました。

これらの四つが有機的に結びついて、安部公房の作品の全体を生み出してゐる。

サンチョ・パンサを求めて

(21)

語学ができるとはどういふことか

岩田英哉

## 1. 語学ができるとはどういふことか

掲題の問いに率直に答へたい。

最初にサキといふ私の好きな作家の中でもこれも傑作といふべき短編『開いた窓』（原題『The Open Window』）の最初のところから引用して、話を続けた。十五歳の少女と、そこに少女の母親であつて、過去に同家に起きた事故の話を巧みにする此の少女の母親が叔母にあたる青年の間の会話です。話は二人の会話で始まる。しかし、初対面で、青年は少女のことも、叔母の家のこともよく知らない。少女はある悲劇の話を始めるところです。

「「悲劇？」フラムトンはずねた。こののんびりした田舎に悲劇は似つかわしくないような気がした。

「不思議に思われるかも知れません。十月の午後だというのに、なぜあの窓が開けばなしなのかと」大きいなフランス窓を指しながら、姪が言った。窓は芝生に向かって開け放たれていた。」

わたしは蘊蓄を垂れたり、あるいは、何かの能書きを垂れたりするつもりはないのです。私が以前何かのことから、西欧の建物に窓を開けると、歴史的に課税されるといふことを知つて〔註1〕、この知識と此の小説の冒頭を結び付けたといふこと、英語でよくいふ次元を一つあげることであるconnect dots!といふことの見本としても、この数行の意味を説いて、語学ができるとはどういふことか？といふ問いに答へたいのです。あるいは、あなたの外国語の勉強に資するものとしたい。

〔註1〕

オランダの例を挙げます。ブログ『世界暮らし歩き(旧 芦谷有香 日々)』：「窓が塞がれているワケ」より上記の写真を転載：<https://yukaashiya.exblog.jp/21707544/>

言語が異なるといふことは、文化が異なることだといふことを肝に銘ずることです。何故なら、文化は言語の別を問はずに、その言語から生まれるからです。あなたの立ち居振る舞いから何から習俗、風俗、慣習、流儀、洋式その他何から何まで言語に依らぬものはない。といふ一般性のある認識の上に、次の説明をします。まづフランス窓の例を見て下さい。



左はアパートのフランス窓、右は平家のフランス窓。共に見ると、床から天井までである窓といはうか、日本人の感覚ではガラスを嵌めた扉かドアかとも見えるものですが、これを西欧ではフランス窓と呼んでゐる。といふことは、フランスの発祥といふことでありませう。

何がしたいかといひますと、このやうな窓を開けてゐる居宅を持つといふことは贅沢なことだといふ感覚を私は感じるからです。これがconnect dots!とスティーブ・ジョブズも晩年スタンフォード大学の卒業生のための講演で、人生を生きるために大事なこととして述べてゐたことです。私も同感です。こんな大きな床から天井までの窓のある家は金持ちに違ひないと思ふわけなのです。確かに、この小説の先々を読み進めますと、一家の主人や息子たちが鉄砲を持つて狩にゆく話を少女は展開して、初心（うぶ）で無知な青年を翻弄するのですが、狩猟はイギリスの貴族や裕福な中産階級の遊びとスポーツの趣味です。英国BBCのTVドラマなどを見ると確かにさうです。同時に、着てゐる衣服の生地が何でどんな模様でどんな色でどんな感触かなどといふところまで、どんな身分の人であるかまで趣味も含めて連想が働くと思ふところが素晴らしい。同じことを私たちは尾崎紅葉や泉鏡花の小説に要求されるのです。

聖徳太子のやうに一を聞いて十を知る、百を知る知る必要はありませんが、せめて三つのことを連想して其の場所をイキイキと想像することができれば、あなたは語学ができるといふことになるのです。このサキの例は具体的な物理的な世界のことですが、これを抽象的な概念の世界に持ち上げて同様の連想が働くやうになれば、あなたは哲学や形而上学の世界でも外国語ができるといふことになるのは同じことです。といふことは、実は日本語の世界でも、わたしたちは毎日普通にこのことをしてゐるのです。このことを思ひ出して下さい。日本語ができなければ、外国語はできないとはこのことなのです。

三つのことといひましたが、サキの例でいへば、たとへば一例ですが、

部屋（備品・用具を含む）・衣装・人物 とか、

抽象的な世界ならば、

空間・現象・本質 とか

概念・内包・外延 とか

概念・意義・意味 とか

まあ、こんな話になるわけです。経験的にも哲学・言語学的にも一つの外国語には三つの日本語が対応し、逆に一つの日本語には三つの外国語が対応してゐます。

実際に日本に来なくてもこのやうに日本語の世界を日本人以上に理解することのできる外国人またはその逆に外国に行かずとも外国のその言語の世界がそれら外国人以上に理解できる日本人を、ともに語学の天才と呼びます。これが語学の世界での天才の定義です。

例を挙げれば、源氏物語を素晴らしい英語に訳したアーサー・ウエイレイ、正宗白鳥といふすぐれた批評家にして小説家は源氏物語をウエイレイ訳で読んで理解することができたと書いてゐます。最後には日本に帰化しましたが、来日以前に既に上述の意義に於いて日本人以上に日本語のできた、安部公房の親しい友ドナルド・キーン、また、後述しますが、私の知つてゐる日本人の例をいへば、英語学なら斉藤秀三郎、ドイツ語学ならば関口存男。フランス語学にも同様の仏語学者がゐる筈です。日本人はこれほどの天才を頂点に戴いて西欧の文物に此の150年余を学んで来た。

ドイツ語の例を挙げませう。十代にドイツ語を学んでから三島由紀夫の鍾愛したヘルダーリンの『追憶』（原題『Andenken』）といふ題の詩を引いて説明します。1963年・昭和39年の『絹と明察』ではヘルダーリンの三つの詩を作中に引用して登場人物の一人に暗唱させてゐますが、その和訳は読むとわかりますが、三島由紀夫自身による和訳です。ドイツ文学者の訳ではありません。ラシーヌの戯曲の日本語訳もさうでしたが、実に三島由紀夫らしい自由な、といつても全く意味のズレることのない、原文の味はひをそのままに写した日本語訳になつてゐます。この詩は『絹と明察』といふ題名を構成する二つの言葉のうち、絹を織り込んで歌つた詩です。そしてまた、三島由紀夫の最後の作品全4巻からなる

『豊饒の海』の言葉の織り込まれてゐる詩でもあります。『絹と明察』論である「三島由紀夫の十代の詩を読み解く 23：詩論としての『絹と明察』（6）：ヘルダーリンの『追想』」より『追想』の和訳を引用します。少し長いと思ふかもしれませんが、この大変すぐれたドイツの詩人の詩を味はふ機会は今この蕪雑な日本では滅多にないでせうから、通して読んで欲しい。

## 「【原文】

## Andenken

Der Nordost wehet,  
Der liebste unter den Winden  
Mir, weil er feurigen Geist  
Und gute Fahrt verheißet den Schiffern.  
Geh aber nun und grüße  
Die schöne Garonne,  
Und die Gärten von Bourdeaux  
Dort, wo am scharfen Ufer  
Hingehet der Steg und in den Strom  
Tief fällt der Bach, darüber aber  
Hinschauet ein edel Paar  
Von Eichen und Silberpappeln;

Noch denket das mir wohl und wie  
Die breiten Gipfel neiget  
Der Ulmwald, über die Mühl',  
Im Hofe aber wächst ein Feigenbaum.  
An Feiertagen gehn  
Die braunen Frauen daselbst  
Auf seidnen Boden,  
Zur Märzzeit,  
Wenn gleich ist Nacht und Tag,  
Und über langsamen Stegen,  
Von goldenen Träumen schwer,  
Einwiegende Lüfte ziehen.

Es reiche aber,  
Des dunkeln Lichtes voll,  
Mir einer den duftenden Becher,



Damit ich ruhen möge; denn süß  
Wär' unter Schatten der Schlummer.  
Nicht ist es gut,  
Seellos von sterblichen  
Gedanken zu sein. Doch gut  
Ist ein Gespräch und zu sagen  
Des Herzens Meinung, zu hören viel  
Von Tagen der Lieb',  
Und Taten, welche geschehen.

Wo aber sind die Freunde? Bellarmin  
Mit dem Gefährten? Mancher  
Trägt Scheue, an die Quelle zu gehn;  
Es beginnet nämlich der Reichtum  
Im Meere. Sie,  
Wie Maler, bringen zusammen  
Das Schöne der Erd' und verschmähn  
Den geflügelten Krieg nicht, und  
Zu wohnen einsam, jahrelang, unter  
Dem entlaubten Mast, wo nicht die Nacht durchglänzen  
Die Feiertage der Stadt,  
Und Saitenspiel und eingeborener Tanz nicht.

Nun aber sind zu Indiern  
Die Männer gegangen,  
Dort an der luftigen Spitz'  
An Traubenbergen, wo herab  
Die Dordogne kommt,  
Und zusammen mit der prächtigen  
Garonne meerbreit  
Ausgehert der Strom. Es nehmet aber  
Und gibt Gedächtnis die See,  
Und die Lieb' auch heftet fleißig die Augen,  
Was bleibet aber, stiften die Dichter.

## 追想

北東の風が吹く  
数々の風の中でも最も愛する風が、  
わたしに吹く、何故ならば、この風は、歓びの精神を  
そして、良き船旅を、船たちに約束するからだ。  
さて、かうして（過去を振り返つて）みれば、しかし、行け、そして挨拶せよ  
美しいガロンヌ河が  
そしてボルドーの果樹園の数々が  
あそこ、其処では、鋭い岸辺に  
小道が先へと行き、そして、河の流れの中へと  
深く、川が落ちて、その先を、しかし  
高貴な一組の、  
柏とぎんどうの木々が、見遣つてゐる。

もつと、これを考へてもらいたい、そうして、どのやうに  
幅広い梢を傾けてゐるのかを  
楡（にれ）の森が、水車小屋を超えて、その向かふに、  
町の庭には、しかし、無花果（いちぢく）の木が成長してゐるのかを考へてもら  
ひたいのだ。  
祝祭の日々に行くのは  
陽に焼けた女たちであり、其処でこそ  
絹の大地（地盤）の上で、  
春の時季に、  
仮令（たとへ）、夜でも昼でも、  
そして、ゆくり行く小道を通つて、  
黄金の数々の夢で重くなつて、  
物事を揺すり寝かしつける、鎮痛の、鎮静の風といふ風が吹くのだ。

しかし、渡すがよい  
暗い光に満ちて  
誰かが其の香り立つ杯を私へと  
さすれば、私は安らふことができようものを、といふのも、甘いだらうからだ  
影たちの下の微睡（まどろ）みは。  
良くはない、  
魂も無いままに、死のことをあれこれと思ふのは。しかし勿論良いことは  
会話であり、そして、真心（まごころ）の意見を云ひ、愛の日々のことを

たくさん聞くことであり、  
さうして、起こり行く行為について、たくさん聞くことである。

しかし、どこに友垣はゐるのだ？あのお伴の者がいつも一緒であつた羨やましき  
ベラルミンは？

大勢のものたちは  
源泉へと向かひ、それに触れることを厭ふころを持ち歩いてゐる。といふの  
も、

つまり、富といふものが始まるのは  
海の中でだからだ。あなたは、  
画家のやうに、集めるのだ  
地上の美を、そして、辱めることはしないのだ  
神聖なる（天使の）翼の生えた戦争を、さうして  
孤独に住まひするのだ、何年も何年も、  
落葉した帆柱の下に、其処では、夜を光で貫き輝かせることはない  
町の祝祭の日々が、  
そして、琴の弦の演奏も、血沸き肉踊る土地の踊りが、夜を光で貫き輝かせるこ  
とはない。

さて、かうして（過去を振り返つて）みれば、しかし、インド人たちのところへ  
と

男たちは行つてしまひ  
あそこの、空に接した先端  
葡萄の山々に接してゐる其処では、  
ドルドーニュの土地が下（くだ）つて来て  
さうして、壮麗なるガロンヌ河と  
一緒になつて、海の幅のままに  
大河は、外へと出て行く。海は、取りもするが、しかし、  
そして、記憶を与へもし  
そして、愛もまた、勤勉に両眼を捉へるのであるが、  
変わらずに留まるものを、しかし、建立（こんりゆう）するのは、詩人たちなの  
である。

#### 【解釈と鑑賞】

三島由紀夫が『絹と明察』で『追想』といふ訳語を採用してゐるので、追想といふ訳語を採用しました（第3章「駒沢善次郎の賞罰」）。

ドイツ語では、Andenken（アンデンケン）といひます。この言葉は中性名詞で、その意味は、手元においていつも御世話になる木村・相良の独和辞典によれば、追憶、回想、記憶、記念と類義語が並んでみえます。

現在に立つて単に過去を思ふといふ意味のみならず、記憶の憶、即ち憶えるといふこと、忘れないといふこと、記憶の記、即ち記するといふこと、即ち記（しる）すといふこと、記して残して記念とするといふこと、これらの日本語での種概念を総て統合して積算した類概念がAndenken（アンデンケン）なのです。日本語一語では、なかなか其の意の総てを尽くしません。これは、翻訳の宿命です。

ここに歌ふことは、記念碑を建てるが如くき追憶であり、追想なのだ、ヘルダーリンは言つてゐるのです。それは、記念碑のやうに、永く人々に記憶され、忘れられることがないほどに堅牢堅固なもの、即ち最後の連でいふやうに「変わらずに留まるものを、しかし、建立（こんりゆう）するのは、詩人たちなのである」からです。

さて、第1連のボルドーを流れるガロンヌ河の写真です。確かに美しい。

[<https://fr.wikipedia.org/wiki/Garonne>]



この河の流れは、スペインとフランスの境をなすピレネー山脈に源を発する河です。同じWikipediaより、その地図を以下に示します。地図の下方に青い筋のひかれてゐるのが、この河です。この流れを、ヘルダーリンは歌つてゐる[註2]。



## [註2]

三島由紀夫の最晩年にいふ「四つの河」は、ヘルダーリンの詩『追想』に由来する三島由紀夫の文学的主題の分類である。此の詩には次のものが歌はれてゐる。最晩年の三島由紀夫の文学的活動は、この詩を下敷きになされてゐる。

1. 海の豊饒が詩人から記憶を奪い取り、記憶を授けること。
2. その海に注ぎ込むガロンヌ河に注ぐ複数の支流(「四つの河」)
3. 商業による男たちの富を陸地で生み出す「絹の大地」。『絹と明察』の題名の絹の意味。
4. とすれば、明察とは海に出帆して海の中の豊饒に赴く孤独な青春の詩人の明察でありませう。
5. 午睡と死への想念
6. 対談集『源泉の感情』の源泉
7. 夜に出帆する船に乗る孤独な若者。船のマスト(帆柱)は6歳の『秋』の詩の柿の樹木のやうに葡萄の葉の枯れ落ちたマストである。しかし下に枯葉はなく、そこにあるのは夜の豊饒の海である。
8. 『文化防衛論』の冒頭の「断絃の時」の古代ギリシャの豎琴の演奏。勿論弦(つる)は断たれてゐない。
9. 以上1から7を経て、最後に詩人の記念碑として打ち立てる「不変なるもの」。即ち三島由紀夫の彫像。このブロンズ像については、西法太郎著『死の貌(かたち)』第四章「脱自ーセバスチャンの裸体像」に詳しい。

また、柏の木と一組になつてゐるギンドロの木とは、次のやうな樹木です。



第2連には、「陽に焼けた」健康な、それもドイツ語でFrauen (フラオエン) と呼ばれる、従い乙女ではなく、既に婚姻をなした成熟した女たちが歌はれてをります。

この健康な生命の女たちは、「絹の大地（地盤）の上」を行くのであり、その女たちの生命の萌え初める「春の時季」にこそ、「ゆくり行く小道を通つて、/黄金の数々の夢で重くなつて、/物事を揺すり寝かしつける、鎮痛の、鎮静の風といふ風が吹く」のです。

その風が、第一連に歌はれる北東の風である。

第3連のベラルミンといふ王者、君侯は、優れた友のものを連れて、源泉へと、富のある海へと向かつた者でありませう。この者は、『ヒューペリオン』という詩的散文で、話者たる主人公の追想の中に登場する人物です。

しかし、普通の者はさうではない。源泉へ、海へと向かふことを嫌い、厭ふのが人の常。しかし、お前は、「地上の美を」「画家のやうに、集める」、「神聖なる（天使の）翼の生えた戦争を」「辱めることはしないのだ」。

このやうな者は孤独であり、「町の祝祭の日々が」「夜を光で貫き輝かせることはな」く、「琴の弦の演奏も」「血沸き肉踊る土地の踊りが、夜を光で貫き輝かせることはない」。

この孤独の者は、「落葉した帆柱の下に」みて、その船の上で「何年も何年も」「孤独に住まひするのだ」。

最後の第5連の第一行で、何故「男たちは」「インド人たちのところへと行つてしま」つたといふかといへば、これは「絹の大地（地盤）の上」で商売をする男たちはみな、インドへ行つて、麝香や香辛料やらの珍奇高貴の諸物を商ひのために、商業的な富を得るためにみな出帆してしまつてゐるといふことなのです。

しかし、真の富は、陸にではなく、源泉たる海にあるといふのです。

ここにも、三島由紀夫が何故『絹と明察』と題したのかの、その絹の意味が明らかでありませう。駒沢善次郎は、「絹の大地（地盤）の上」で商売をする男たちの一人です。

この第5連で、ヘルダーリンは、第1連で使つた、「さて、かうして（過去を振り返つて）みれば」といふ意識を表すドイツ語の副詞nun（ヌーン）を再度使つて、読者の意識もまた過去を追想するやうに誘つてをります。

一言で云へば、文法的にみても、この詩は、nunで始まり、nunで終わる、即ち追想で始まり、追想で終わる詩だといふことができます。それ故に、この詩の題

名は、Andenken（アンデンケン）、追想といふのです。

かうしてみますと、最後の二行、即ち、

「そして、愛もまた、勤勉に両眼を捉へるのであるが、  
変わらずに留まるものを、しかし、建立（こんりゆう）するのは、詩人たちなの  
である。」

とは、愛もまた、そのやうな詩人と同じやうに、移り変わり流れる河のやうな時間の中の現実をよく捉えて、よく両目でみるのであるが、しかし、愛だけでは、記念碑は立たないのだ、記念碑、即ち「変わらずに留まるものを、しかし、建立（こんりゆう）するのは、詩人たちなの」だ、といふ意味でありませう。

この詩の様式を眺めれば、他の詩と同様に、ヘルダーリンの様式の感覚が、恰も隠れた美であるかのやうに、隠れてをります。

この様式の美しさは、『帰郷』といふ詩で、

「最良のもの、神聖なる平安の穹窿（きゅうりゆう）の下にある掘り出し物、  
これが、老いにも若きにも貯えられてある。」

と歌はれてゐる、この「神聖なる平安の穹窿（きゅうりゆう）の下にある掘り出し物」でありませう。この「掘り出し物」を、三島由紀夫は岡野にハイデッガーの言葉を引用して、次のやうに言はせてをります。

「岡野はハイデッガーがあゝの「帰郷」に註して、「宝、故郷のもつとも固有なもの、『ドイツ的なもの』は、貯へられてゐるのである。……詩人が、貯へられたものを宝（発見物）と呼ぶのは、それが通常の悟性にとつて近づき難いものであることを知つてゐるからだ」と書いたときに、見かけは清澄な言葉で語りながら、実はもつとも不気味なものに行き当たつたのではないかと疑つた。」

この近づき難さは、この『帰郷』の詩が、その第4連で言つてゐる難しきでありませう。即ち「絹の大地（地盤）の上」を離れ、出帆して、海にすべてを委ね、奪はれるものを総て奪はれ、与へられる記憶を与へられることを受け容れられるか、一個の人間として孤独に、といふ近づき難さでありませう。

この記憶こそ、「建立（こんりゆう）」された「追想」であり、Andenken（アンデンケン）なのです。

この「神聖なる平安の穹窿（きゅうりゅう）の下にある掘り出し物」は、

- 1。陸（おか）と海
- 2。陸と風
- 3。海と風
- 4。祝祭日の、健康な、生命の、成熟した女たちと同じ絹の大地で働く男たち
- 6。商業（経済）の男たちと詩人たち
- 7。祝祭の昼と帆柱の夜：昼と夜
- 8。商業の富と隠れたる富
- 9。経済の戦争と「神聖なる（天使の）翼の生えた戦争」
- 10。町の門の外に育つ楡の木と町の中の庭に育つ無花果の木
- 11。山と川
- 12。川と河（大河）
- 13。果樹園と川
- 14。「落葉した帆柱」：陸の（動かぬ）樹木と海の（動く）帆柱
- 15。奪ふことと与へること
- 16。記憶と忘却（記憶の喪失）
- 17。愛の変と詩人の不変

この言葉による対比的な様式は、三島由紀夫を魅了しました。何故ならば、この様式が美を生むからです。」

この詩は、上記の最後に1から17までの項目にまとめたものが織り込まれて一体となつてゐる詩です。言語表現として非常に高度な詩です。そして、この高度な詩の中で、次の下線を施した三行、特に真ん中の「陽に焼けた女たち」に注目して下さい。

「祝祭の日々に行くのは  
陽に焼けた女たちであり、其処でこそ  
絹の大地（地盤）の上で」

わたしがこれから申し上げたいのは、語学ができるとはどういふことか？といふ問いに対する答へでありますから、この答へがこの三行にあるといふこと、それが言葉の連鎖によつて、即ち本居宣長の名付けた玉の緒によつて、私のいふ概念連鎖によつてどんなに詩の表現として高度であるかといふことと（勿論その高度性は此の三行だけではない）、どんなに幅広い文脈を含むかといふことの説明をしたいのです。これが語学ができるといふことであるといふ説明をしたい。ですから、詩の表現に関する精細な技術については、多くを触れることはしないの



で、ご理解下さい。ここで立てる問は、

問：「陽に焼けた女たち」とは何か？ といふ問です。

次のような答へになります。原文は、die braunen Frauen/ブラウネン・フラオエンとなつてゐます。英語に更に訳し返せば、the brown womenといふ意味です。一体直訳して茶色の女たちとは何か？といふのが、この細部に至つた読者の問になるでせう。既にドイツ語から上記に訳してゐる通り、茶色とは、日に焼けて肌がbrown・ブラウンになつた女性たちといふ意味なのです。しかし、話はここからです。一体肌が日に焼けた女たちといふ言葉をドイツ語で聞いて、また文字で読んで、一体何を連想するか、一体どのやうな女性たちを思ひ出すか、これが此の主題の眼目であり焦点なのです。この言葉を聞いたら直ちに次のことが判ります。

1。季節は夏である。

2。この女性は夏には海辺に行つて少なくともひと月は避暑のために海浜ホテルに宿泊し、昼間は浜辺に籠が屋根になつてかぶさつてゐる日除けのついた長椅子でのんびりと読書などをして、



夜にはホテルにあるカジノで散財することを厭はずに遊ぶことのできる金持ちの商人の、今なら富裕なビジネスマンの夫を持つてゐるご婦人たちである。

3。時折何かを調達しに町中に戻ってくる時には、高価な衣装を身に纏ひ、宝飾品をみにつけて、優雅な身のこなしで、カフェなどに入つて来る、そんなご婦人たちである。

と、まあ、大体私の経験では、夏に日に焼けた女性といふとこんなことを思ひ浮かべるのです。肌が日に焼けてゐるといふことだけで、此のことが女性の家の豊かさを示してゐるわけです。

そこでこそ、「絹の大地」といふ言葉も結ばれてよく理解ができる。それが祝祭

の日々であれ尚、よく理解ができる。といふことになります。詩人はそのやうに言葉をつ編んでゐる。織物を織るとか編むといふ表現がびつたりします。

さて、この箇所を他の訳者で見比べて。『Hölderlin/ANDENKEN  
ヘルダーリン：「追想」と題したブログの1ページの訳は次のやうなもので  
す：」 <http://www2.biglobe.ne.jp/~naxos/Hoelderlin/ANDENKEN.html>

「祝日には  
褐色の女たちがそこで  
絹のような地面の上をあゆむ、」

「絹のような地面」は直喩ではなく、原文は隠喩ですから、何故ならドイツ語の絹・Seiden・ザイデンといふ名詞と同じ名詞の地面・Boden・ボーデンの組み合わせで一語とした名詞だからですが、だから「絹の地面」でなければなりません。この誤読は誤読としても、「褐色の女たち」ではなかなか日本人には上記の連想ははたらかないこととせう。かういふところが難しいのです。翻訳の難所であり、急所です。

このやうに「褐色の女たち」が理解できれば、旦那である男たちが交易のためにインドに行つてゐて留守であり、インドの香辛料やその他高価な品物を仕入れて船で港に帰国するといふ様子まで目に見えるやうに読むことができます。

## 2. 語学の天才とはどのやうな人間であるか

(続く)

## 私の本棚

(43)

ヤマザキマリ著『壁とともに生きる わたしと「安部公房」』を読む

岩田英哉

安部公房の熱烈なる読者の書いた安部公房本はなんであれ、論ずるのは楽しい。同じ世界を共有してゐるから、さう思ふので、それはお互ひに生きる世界が違つてゐても一向に差し支へがない。

この著者は、世に名の知られた漫画家で、有名になつたきっかけは『テルマエ・ロマエ』といふ、古代ローマ帝国と現代日本の間を空間転位する主人公を描いた漫画で、その転位の場所がいつもお風呂であるといふことが、やはり安部公房の愛読者らしいのである。何故なら、お風呂とは凹の、窪みの、即ち存在の形象であるからです。勿論、この凹の形象は安部公房独自のものだけなのではなく、世界普遍性を太古から持つてゐる。例へば『カンガルー・ノート』の最終章第7章は「ひとさらい」の歌のあとに次の数行で始まつてゐる。「ひとさらい」の歌とは、かうしてみると空間転位ソングなのだといふことが判ります。

「吹きすさぶ風。病棟とほぼ直角に切り結ぶ北東の風。速度の違う大気の流れが、上空で摩擦し合う音。地面の凸凹が鳴らすアナログ式の蓄音機。濃縮された情報のシチュウ。聴覚神経を精密分析器にして、音の分離をこころみる。

ぼくを誘っている音……呼んでいる声……」

これは、安部公房の詩の世界です。

理屈をこねれば、「速度の違う大気の流れ」は渦巻きを生み出すので（何故なら世界は時間的には遅延といふ差異であるから）、「吹きすさぶ風」が生まれる。この自然感覚は太古の縄文人のものでもあるので、何故なら速度の違ふ流れは空気であ海の潮であれ、渦巻き模様を形象として生み出し、それは縄文土器の模様の凸凹で表される形象に結実してゐるからで、さうであれば、「アナログ式の蓄音機」の上で回転するレコードは「地面の凸凹が鳴らす」音だといふ（安部公房には珍しい）隠喩の使用は正しく其の通りで、この出出しは、科学と詩の融合としての散文になつてゐる。詩的散文になつてゐる。「聴覚神経を精密分析器にして、音の分離をこころみる。」などといふ一行は、1970年代の安部公房スタジオでの役者たちに施した演技指導論そのものではないか。「吹きすさぶ風。病棟とほぼ直角に切り結ぶ北東の風。」は、風とは十代の安部公房が耽溺して読んだリルケの詩に学んだ存在の形象。何故なら風はい

つも一つであり、障害物（例：建物）によつて別れても、その向かうで一つになる、即ち1になり、存在になるからです。それが「吹きすさぶ風。病棟とほぼ直角に切り結ぶ北東の風。」といふ言葉の意味。とあれば、この交差点にある形象はやはり渦巻きであり、台風の目と同じく其の中心は凹だといふことになります。これが縄文文化の核心だといふ認識が安部公房にはあつたことのわかるのは、この数行の後の次の段落で縄文人といふ登場人物に言及してあることから解ります。だから、箱根に籠つてからの安部公房は一層に言語の研究に勤（いそ）しんだ。私はさう思ふ。

さて、このやうな安部公房といふ男に惚れたヤマザキマリの人生や如何に。さういへば、別の著作の中に、この漫画家の惚れたいい男列伝といふべき著作『男性論 ECCE HOMO』がありました。安部公房はその中の一人として入つてみました。話が少し脱線するやうですが、この女流漫画家にとつてのいい男とは、皆世の規格から外れた変人ばかりの男と当人が認識する男性であることは、この男性論の「第4章 男性論III 変人論」に安部公房が「心の師匠 安部公房」として入つてあるので、さうだと解ります。安部公房は変人である。あなたにも異存はないでせう。この章に名前の挙げられてゐる変人の男どもは、次のやうなものです。

ハドリアヌス帝

プリニウス

フェデリーコ2世

ラファエロ

スティーブ・ジョブズ

安部公房

水木しげる

つげ義春など「ガロ」系漫画家

花森安治

この章を読むと、ヤマザキマリの惚れる男性とは「空気を讀」めない男、読まぬ男であり、「自分がいま暫定的にいるにすぎないば場所やルールに、高度に順応できるというだけのことでしょう？しかし本来であれば、合わなきゃ、出ていけばいい。こんな顔色を窺いあい、牽制のしあいがなされる風潮がはびこっているのは、なかなか古代ローマ的なダイナミズム、ルネサンス的盛り上がりは起こりそうもありません。」といふことからわかるやうに、合わなければ出ていく男、他人の顔色を窺わぬ男、他人への牽制などしない男です。きつと、安部公房の読者といふのは、みなこの手の男なのです。女ならば、きつとこんな男に惚れるやうなヤマザキマリ式の独特の女なのです。さて、かういふ

女性であるヤマザキマリでありますから、好きになる男は皆規格外れで、一番苦しむのは本人といふことになる其の最初の同棲して子供までもうけたイタリアでの詩人である恋人との極貧時代に安部公房にであふことになる。それも、「十代の後半、私は留学先のイタリアで安部公房の作品に出会って以来」のお付き合いである。「私は十七歳で単身イタリアに渡り、フィレンツェのアカデミアという美術学校に留学した」といふ此の時代の貧乏生活が、この安部公房論の最初の前書き、序文の章であつて、この章が一番面白い。この後は、安部公房の作品論と自分の人生の関係を論じてみて、これはこれでヤマザキマリといふ女性を理解するには面白いものですし、楽しいものですが、如何せん安部公房の読者はみなこれらの作品を先刻ご存知なので、あなたは、そんなの知ってらいといふやうな気持ちになりがちであると私は察します。

しかし、何故前書きが面白いかといふと、17歳で単身イタリアに渡つたといふ決断が普通ではない。この時代の生活を著者は次のやうに書いてゐる。若い頃の安部公房みたいである。この時代に安部公房にであふのです。その時期が「私がイタリアに留学し、詩人と暮らしていた一九八〇年代半ばからの十一年間」であつた。日本はバブル経済の絶頂期で、1985年は此の時代の結節点であり、節目であつた年です。この年にソ連にゴルバチョフが登場し、プラザ合意〔註1〕がなされたからです。さうしてソ連の崩壊と日本のバブル経済の崩壊へと向かひ、1990年代から今に至るまでの政府と官僚の無策による不況が続いて今日に至つてゐる。

「その頃の私は、異郷の地で画家を目指しながらも極度の貧窮状態に陥り、この世のものとも思えぬ不条理と向き合う日々を送っていた。文字通り「飢餓」状態の只中で、お腹が空いても食べる物が無い。支払うお金もないから電気、ガス、水道のインフラは止められ、電話も通じない。

その頃、私はとあるイタリア人の詩人と同棲していた。当地に渡ってから間もなくしてできたその恋人は、そんな極度の窮乏生活のなかで友人や親族から借金を重ね、私が通訳などのアルバイトでお金を稼いでも、本やワインを買って瞬く間に使ってしまう。」かういふ女性を近頃の流行語でダメンズ・ウオーカーとふのださうです。倉田真由美の秀逸な連作漫画があります。

〔註1〕

プラザ合意：野村證券「証券用語解説集」：[https://www.nomura.co.jp/terms/japan/hu/plaza\\_a.html](https://www.nomura.co.jp/terms/japan/hu/plaza_a.html)

プラザ合意（ぶらざごうい）

分類：経済

1985年9月22日、過度なドル高の是正のために米国の呼びかけで、米国ニューヨークのプラザホテルに先進国5カ国（日・米・英・独・仏=G5）の大蔵大臣（米国は財務長官）と中央銀行総裁が集まり、会議が開催された。

この会議でドル高是正に向けたG5各国の協調行動への合意、いわゆる「プラザ合意」が発表された。具体的な内容として「基軸通貨であるドルに対して、参加各国の通貨を一律10~12%幅で切り上げ、そのための方法として参加各国は外国為替市場で協調介入をおこなう」というものであった。プラザ合意の狙いは、ドル安によって米国の輸出競争力を高め、貿易赤字を減らすことにあった。

一方、日本ではドル高の修正により急速に円高が進行し、輸出が減少したため、国内景気は低迷することとなった。1987年2月に開催されたG7（G5+加、伊）は、過度なドル安の進行を防止するべく、パリでルーブル合意を成立させた。ルーブル合意以降、為替相場は総じて安定することとなったものの、円高不況に対する懸念から、日本銀行は低金利政策を継続し、そして企業が円高メリットを享受し始めたこともあり、国内景気は回復に転じた。しかしその後、低金利局面と金融機関による過度の貸出が過剰流動性を招き、不動産・株式などの資産価格が高騰し、いわゆるバブル景気が起こることとなった。

このような時代にヤマザキマリのゐた「当時フィレンツェには「ガレリア・ウプパ」という画廊と出版社を兼ねた、地元の芸術家や文芸人の集まるサロンのような場所があつて、私と詩人は足繁くそこに通っていた」この「ウプパには私たちよりはるかに年上で、それまでの人生においてあらゆる不条理を経験し、現在進行形で貧困という辛酸を舐めつつも、諦めずに創作を続けている画家や作家や思想家たちが集っていた。」そして、「このサロンの主宰者だったイタリアの老作家が書棚から持ってきた本が、安部公房の『砂の女』（一九六二年）のイタリア語版だった。/「これを読みなさい。今の君はこういう文学に触れておくべきだ。」これが著者と安部公房の出あひの瞬間です。「それは一九七〇年代に、まさに須賀敦子さんがイタリア語に翻訳した『砂の女』の古本だった。」ちなみに、上記の男性論の中で、いい女の筆頭に著者は此の著名な須賀敦子の名前を挙げて論じてゐます。更にこれもちなみに、サロンの主宰者である「老作家の同性の恋人だった南米出身の亡命詩人が、私にガルシア＝マルケスの小説『百年の孤独』を「「これを読んだほうがいい」とプレゼントしてくれた。」最初の安部公房と晩年の隠棲した安部公房の二人の安部公房に一度きにであつたといふべきです。

私が安部公房にであつたのは、著者と同じ年代の17歳の時に相違なく、当時新潮社から出始めた箱入りの単行本の叢書の一冊として『砂の女』が発刊された。安部公房が誰かも知らずに、都会から遠く離れた辺鄙なる文化果つる寒冷の地で、21万人の人口の町に一つしかないほん屋、「本のデパート山下書店」といふキャッチコピーも懐かしい書店で買って読んだに、これも違ひない。当時のわたしは、この書店に二階にあつたペンギン・ブックスのある小さくて貧しい書棚の一番上得意の子供の客であつた筈である。私以外で上得意を探せば、土地の教育大学の英語の先生か工業高等専門学校 of 英語の先生位ではなかつたらうか。前者の大学の先生からはチャールズ・ラムの要約した有名な

『シェイクスピア物語』の購読で英語読解の手ほどきを受け、後者の先生からはやはり一般的な英語の文章の読解の手ほどきを受けた。ああ、シャーロック・ホームズを読んだのは後者の先生の元である。『The Twisted Lips』など今でも記憶にある。この御二人の課外での此のやうな教育の場所が、当時あつた梅風塾といふ私塾で、世にいふスパルタ教育だといふので市内外に有名な塾であつたが、確かに玄関を入ると正面に「学ぶ意志のないものは去れ」といふ言葉が白紙に書かれて張り出されてゐたのを思ひ出す。私には『砂の女』に思い出される想ひ出とは、およそ此のやうなものである。その後上京して『他人の顔』『燃えつきた地図』その他のエッセイ、さう『砂漠の思想』を熱心に繰り返し読んだ。私は小説よりも、安部公房のエッセイに惹かれてゐた。この性向は今でも基本的には変はらないのではないかと思ふ。つまり、安部公房の散文の論理展開に、従ひこの男の思考と其処から生まれる哲学に、非常に魅力を感じたのです。

当時の東ドイツから帰国して東京に住むやうになつて、ある日とつてゐた新聞の朝刊を開くと、下段に新潮社の大きな広告が載つてゐて、安部公房全集の刊行と謳つてあり、書店で予約を受け付けてゐるといふ文字が目に入った途端、私はその広告部分を破いて持ち、真っ直ぐに最寄りの駅のそばの本屋に向つたのである。道々、私はこころの中で、自分の行為に不思議を感じて、自分はなんでこんなことをしてゐるのだらうか、ああ、俺はこんなに安部公房が好きだつたのか、と初めてその時私は安部公房がこんなに好きだつたのかとしみじみと思つたのである。先月かその前であつたか、読者の方たちと『密会』の読書会を開いて、参加者と話をし、当該箇所の記事を読んでゐて、余りの安部公房の文章の優しさと繊細さと想像力の豊かさに思はず声を挙げて泣きたくなつたのを必死にこらへたことは、悪であつたかも知れない。

あなたも安部公房の読者である以上は、間違ひなく、ヤマザキマリと同様に貧困と窮乏と忍耐と世の理不尽に直面しながら生き続けてゐる人間の一人に違ひない。ヤマザキマリは、この状態の現実を壁と呼んでゐる「壁」と題してゐないのは、人生の最初から、さうイタリアに行く前から「壁」は比喻ではなく現実であつたからであらう。さうでなければ、17歳で単身イタリアに渡つて人生を始めるなどといふ無謀な選択はしなかつた筈です。さうして、安部公房の方は正反対に「安部公房」と書かれてゐる。さうしてみると、この鉤括弧の心は、世間一般にいはれてゐる安部公房なんかぢやないのよ、私の惚れた、命を救つてくれた、私だけの特別の男「安部公房」なのよ。といふ意味でありませう。

安部公房の読者の人生は、ヤマザキマリの人生に、多かれ少なかれ、似てゐる

ところがあるのではないだろうか。いや、俺のわたしの人生にヤマザキマリの人生の方が似てゐるのだと思ひながら、さう思ふほどに安部公房のあなたは読者である。

さう思ふ安部公房の読者であるあなたの人生は、かなり波瀾万丈の人生の筈です。いや、違ふ？それならこれから波瀾万丈の人生が待つてゐる。あなたが求める求めないに関係なく。



私の本棚

(44)

深田萌絵著『メタバースがGAFA帝国の世界支配を破壊する』を読む

岩田英哉

1。「メタバースのエコシステム」の前の章まで読了した後の最初の感想

(1) 文章はとてもよく理解することができる文章です。大変わかりやすい。これはメタヴァースの発表ステージが次に進むまで売れます。つまり、未だ定義のないといふ混沌状態をどこかの企業が具体的な商品といはうかシステムといはうか、一つの世界を第二ステージの初期段階で売れるまで売れます。といふことは、

(2) 著者の書くべきまたは書くことのできる次の本は同時に、業界向けの少し専門性の高い本といふことになります。どの程度の読者を対象にするかといふと、いはゆる経営者、ソフトウェアやシステムのエンジニア、それからこのpotentialな業界の核の周囲にゐる二次業界の人々が読者です。

2. 次に読みながら考えたこと

(1) 既存既製のインターネットの通信はN:Nであり、アメリカにあるICANNでdomain nameを登録して取得するわけですが（これを民間企業に格下げしてそこに中国共産党のフロント企業を入れるとは此処でもオバマは売国奴であり本来なら死刑だな。私もよく知ってゐるがこの情報は個人・企業情報の宝庫です。マーケティングに使ひませんと当時調べた時に登録上の但し書きが書いてあつたが、さうなればこれももう中国にとられ放題である）、GAFAと中国の中央集権型のネットワーク支配（スター型ネットワーク：かつての初期のIBM大型汎用コンピュータのトポロジー）を脱して、全く無関係に新しい次のやうなネットができないであらうか。

(2) それは、domain nameの存在する空間がpublic domainだとすると正反対にprivate domain nameを取得して、それも一時的な一回ごとに捨てて使用する使い捨てのdomain nameをN:N通信ではなく、特定の相手同士がよく知り合つてゐるか、ある程度知り合つてゐる程度の人脈ネットでネットワークする（働く）k:kのprivate domain networkの創造です。

(3) 別に世界中と接続して意思疎通する必要はない。といふ考へ方に立脚した、即ちグローバリズムと正反対の、逆にこれを否定するnationalismといふならさう言つても良いかもしれない（場合によつては）ネットワーク概念の提唱です。

(4) この着想は、日本製の検索エンジンと日本製のプラットフォームの自己閉鎖生態系のネットワークの構築企画に拡張性があります。別に二つを一緒にする必要はない。このネットワークの最大規模は日本国籍を有する人たちのみといふ条件とします。

(5) そのネットワークは当然に秘匿されねばならず、暗号化技術を活かしたネットワークにする。ここでビットコインの基礎となるブロック・チェーン技術が融合できるのではないかとすると、

(6) 日本製のメタヴァース空間も上記1の進展と相俟って構築することができる。とすると、

(7) 著者の経営するIT企業Revatron社の技術が生きるのではないでせうか。

### 3. メタヴァースの空間の特性について

(1) メタヴァースの空間は、株式相場やFX相場、要するにマーケットに大変よく似てゐる。

ちょっとピンとこないかもしれないが、言葉を継いで話すので、読者にはついてきてほしい。

茅場町のSMBC日興証券の子会社のIPO上場専門のIR企業に履歴書の最後になる企業に奉職してみた時に得たイメージ・形象が、ああ、相場といふ場所の上で上下してゐる株価といふものは、二次元で上から平面として見るとアメーバに似てみると実感しことがあります。いまだにこのイメージは生きてゐる。つまり、AからZまでの株の銘柄があるとして、時間帯により、また企業の風聞により、実際の決算結果によりなどなど、株価ひとつひとつの連動性を考えて見たときに、少し誇張していふとわかりやすいと思ふが、さっきまで上昇してゐた二つの株が、次の時間単位に入ると別れて、片方は上昇中の他のMの株と連動してくっつき、もう片方は同じ上昇（または下降するかもしれない、どちらでも良い）するU・Y・W株と一つにまとまって連動するかも知れない。これの株価の連動性と類似動向性を三次元のグラフで立体的に、それこそ今でこの本にいふメタヴァースのホログラフで目のまえで、しかも濃淡をつけて階調を示し、どこで入りどこで出るかを直感的に時間的な変化する動態体として市場が立体的に表現できたらトレードが面白いし楽しくなるなと思つたことがあるのです。

(2) メタヴァースの空間は、無重力の宇宙空間に似てゐる

これはどういふことかといふと、これまたイメージしてほしいのですが、一つの駅舎のプラットフォームが宇宙空間に浮いてゐると思つて下さい。これを垂直に立てても、水平でも斜めでも良い。そこにもう一つのプラットフォームがやつてきて浮いてゐる姿は、垂直・水平・斜めながらに、しかしまた別に回転してゐるかも知れない。こんなプラットフォームが一杯あるメタヴァース空間を想像してほしい。プラットフォームの概念は駅のプラットフォームと変わらない。何が言いたいのか。

上記1に書いた空間内生物アメーバ論と同じであり、またその延長内にあるイメージですが、最初にひとつできたプラットフォームにアメーバのやうに他のプラットフォームという同じ単位か、またはプラットフォームといふ一つの単位に付屬的に接続される二次的な単位群が集まって蠢いてゐる（なぜなら生きてゐるから）といふイメージです。ですから、アメーバ結合運動体を平面的な形象とすると、これを三次元に立体化したイメージが、このメタヴァース空間内アメーバ型プラットフォーム群のイメージといふことになります。

ちなみに、駅のプラットフォームには二種類あつて、一つは駅舎の中から、つまりプラットフォームの上に管制室があつて直接その駅でプラットフォームのコントロールのできる型と、もう一つは駅舎に管制室はなくて、駅舎の外部からコントロールするものと二つです。これは仮想現実空間のプラットフォームも、プラットフォームといふ概念は物理空間と同じですので、二種類ある筈です。言語から見るとかうなる。何より私は此のことを鉄道マニアから教つたのです。

#### 4. 日本の国がメタヴァースで主導権を握る思想と方法

(1) グローバリズムのみでは考えずに、ローカリズムでメタヴァースの構築を考えることが大事である。なぜなら、グローバル展開と国家主権発動による国際規格の主導権争いは企業間で仮にあつても、結局は国境線を引くことによつてしか解決できないからである。20世紀の規格争奪戦を想起せよ。国家のバックアップと支持をえないで、日本の企業が規格戦争（と呼ぶことにしよう）に勝つことはないからである。私がこのことを主張できるのは、坂村健著『グローバルスタンダードと国家戦略』（2005年9月）を読んだからで、やはり国家戦略は技術立国を重視すべきである以上は（これもまたマトリクスを下記6で後掲します）、これを最初に定めて、その後に文化戦略を載せることを同時並行で考えるべきであると著書から知ることができる。企業は企業の利益を第一に規格の主張を大いにして構わないが、国家の支持と保証が全面的になれば、日本は勝負に負けるといふことである。その点では、萌絵の著作にある日本政府と経済産業省の腐敗した中国との関係で技術移転を台湾も含めて中国共産党のフロント企業に数多く移転してきたことは国家犯罪であるの

で、まづメタヴァースで勝つには、これらの政治屋と官僚の利権構造を破壊しなければならぬといふ前提条件が、日本の場合にはハンディ・キャップとして国民に正視され批判され、国家のあり方としての矯正的解決がまづ第一に法的に（といふことは国家安全保障の問題として法制化して）解決されねばならない。

（２）同じ日本の産業育成と国家及び国際地域社会の発展といふ互惠関係の対構築といふ視点から書かれてゐる榊原英資著『文明としての日本型資本主義「富」と「権力」の構図』を読むと、やはり技術基盤に関する知識が不足してゐるために、十分に題名通りの論になつてゐない。外国はかうだといふ論の立て方では、日本独自のネットワーク構築の話には、文化立国を前提にしてゐながら、議論が収束して結論に至らない恨みがある。これはいつもの明治以来の日本人の外国引用礼賛論の弊害です。この論考の基礎は「ニッセイ基礎研究所の細見会長をかこんで、井尻千男、岡本行夫、島田晴雄、西部邁、および松崎哲久」たちとの研究会であるが、これだけの陣容で望んでも、この程度のアイデア（未熟である）にしかならないのである。日本の国としての富と権力の創出と税金の無駄遣いをしないためのメタヴァース・ネットワーク構築には、上記（１）のことが肝要と存ずる所以である。この本の初版は1993年11月。メタヴァースなどの仮想現実空間創造技術との関係では不足の内容であるにせよ、一般知識を得るための書としては悪くなく、問題の項目が網羅されてゐるといふ意味では、執筆者のお名前からも、いふまでもなく、良書です。

### 5. メタヴァース空間のイメージ

上記3と関係して、もう一つのメタヴァースのイメージを提示したい。それはネットから拾ってきた二股の樹木の写真をみてください。



要するに、メタヴァース空間と既存の物理空間・現実空間の関係は、この著作を読むと、このやうな根元の太い此の樹木としてある現実の（まあ、ツリー構造といへば理解できるでせう）樹木のうちの一本の樹木なのではなく、双頭の、といふならば驚ですが、一本の根と地上の一本木からなるだけ地上に近い幹のところ（物理層内）で二つに分かれて上へと伸びてゐる大木です。

これに連想して思つたことは、そしてこれは間違つてゐないと思ふが、メタヴァース空間内での事業は、皮肉なことに、逆説的と聞こえるだらうが、物理的な世界の不動産事業に大変よくにてゐるといふことです。この不動産事業の責任と同じものを理解するのに、ヤフオクやFBやTwitterのSNSをぢかに考えても全然問題がない。つまり、

ヤフオクは、オークションのための場所貸し事業である。

この上で売り買いが行われる事故と事件の責任は場所貸・運営者は一切負わない。直接当事者同士でやつてくれと、まあ、基本的にはこんな感じではないかと思ふ。結局政府が自由な言論空間での自由な発言と表現を保証し保証するための政策立案と執行が大前提といふことになります。ところで、国家とは一体なにか。

さて、これは世にいふマッチング・ビジネスです。といふと出会い系のSNSも同じです。FaceBookもTwitterもマッチング・ビジネスといふ主たる性格を備えてゐる。

とこのやうに考えると、不動産事業に似ているといふ私の言葉も理解できるでせう。どんな仮想現実のサービスも商売も物理的な起源を持つてゐるし、そこにある物に似せて始まる。といふ事実は、私は独和辞典を読んで知つたことです。手書きで描くとこんなイメージです。「メタヴァース二股樹木図」です。



要するに、メタヴァース空間と既存の物理空間・現実空間の関係は、この著作を読むと、このやうな根元の太い此の樹木としてある現実の樹木のうちの一本の形象になる。岩ならば、よく海辺に立つ夫婦岩といふやうな形象感覚です。

## 6. 国家とメタヴァース空間の関係

(1) 当然に国家主権優先であるべきです。最優先といふべきです。著作を読みますと、中国共産党以下関係する企業は、欧米も含め当然に、皆グローバルイズムですから、上記4の提言と相俟って、次の法律により規制すべきです。これは今でも既に二次元仮想空間の時代にあつても明々白々のことになつてゐる。鈍いのは政治屋と官僚です。かうしてみると日本の政治家と官僚は日本の企業の方を少しも向いてゐないことがよくわかります。誰のために政治と行政を行なつてゐるのだ。国家の使命を忘れたダボスの猿どもは一掃ませう。

- (1) 統合的な（といふいみは当然に軍事を含む）安全保障法の制と執行
- (2) 独禁法の積極活用（これはまづ既存の法律のできるので非常にこの積極活用は重要）
- (3) 刑法の改正（厳罰に処することをメタヴァースに特化する）
- (4) その他関係するすべての法律の制定と執行

この執行の中には当然にアメリカのオバマやヒラリーなどの売国奴政治家を見ればわかるやうに、死刑の執行も含まれる。国民と国家の財産を海外に、それも中国に転売して利己的な利殖を図るやうな日本の政治屋と官僚で同類の売国奴は死刑に処せられるべきです。

従ひ、

(5) 国家は現実には物理層で適用し得る法律の延長を一次・二次元上の仮想現実・メタヴァース空間にもそのまま適用することを、これも当然に考えるべきであり、その場合の二つの階層の接続イメージは、上記5の通りです。また法的責任の切り分け、損害賠償責任分担・区分けも同様のイメージの上に現実化できると考える。

## 7. 今とこれからの時代の「メタヴァース空間と現実世界の関係マトリクス」

この著作を読むと次の通りとなつてゐるし、これからなります。

2022/05/31

eiya iwata

### メタヴァース空間と現実世界の関係マトリクス

此处では仮想現実空間に関する産業を四次産業と呼ぶことにする

	貨幣及び通貨に関する制度と信用	四次産業世界・論理世界 [虚構・仮想の世界]	物理的世界 [現実世界]	20世紀の産業分類	備考
二次通貨(token)	仮想通貨・暗号資産	Token (賈の通貨)	紙幣・コイン	二次産業・三次産業	
一次通貨	信用2	メタヴァースの世界構造・仕組み	米、小麦、金、銀	一次産業	人間の生命に関わる階層
国家基盤	信用1	メタヴァース用産業技術の基盤・インフラストラクチャー2	20世紀までの産業技術の基盤・インフラストラクチャー1	複数の1・2・3・4次産業の複合体である産業複合体産業	
		四次産業基盤システム基盤 (メタヴァース構築基盤)	[都市・農村間の交通網その他広義の通信網と通信システム基盤]		
		広義の通信システム社会基盤 (二股樹木の下半身の部分)			

今ウクライナで局地的な戦争がロシアとの間起きてゐますが、これはダボス会議が起こしたものと広くヨーロッパでは普通のマスメディアには認識されてゐる。アメリカでは之が民主党とネオコンと国際金融資本のうちの反トランプ勢力の謀略と理解されてゐる。

しかし、世界統一政府をつくらうといふ目論みは、今回のウクライナ問題で減じてしまった理由は、このマトリクスをみながらウクライナ情勢の成り行きをみると明らかです。上掲図の第四次産業といふ用語は、ダボス会議の主宰者であるシュバブの著作『第四次産業革命』の第四次に合はせても、作図論理上無理がないので、さう呼んでゐます。

ダボス会議・民主党・ネオコン・反トランプ勢力の国際金融資本の勢力の論理的問題による今回のthe Great Defeatの原因は、上図の一次通貨と二次通貨の関係が理解できなかつたことによつてゐます。何故なら、これらロスチャイルドに発する金持ちたちのためだけにあるアメリカの資本主義は、二次通貨と私が名付けた通貨の範囲内でしかものを考へてこないままに20世紀を過ごし、戦争を起こして極限状態を生み出せば、そのたびに金が儲かると盲信してきたからであり、一次通貨の存在をすっかり忘れてゐたからです。これを金儲けの手段とだけしか考へてゐなかつた。実は、一次通貨こそ、二次通貨の大前

堤、即ち、外部であつたのです。

存在といふ言葉から、安部公房の読者であるあなたには既におわりの通り、『終りし道の標べに』を参照するまでもなく、食料とエネルギーといふ一次通貨は、一個の人間の命に関はる一義的な流通貨幣 (currenty) でもあるからです。江戸時代の米による扶持米を思ひ出して下さい。これを実は本貨として二次的な贗の通貨、即ち大判・小判であるtoken・トークン [註●] 即ち贗の通貨が同時に流通した。

[註●]

Webster Onlineから：  
token noun

Definition of token (Entry 1 of 2)

1

a: a piece resembling a coin issued for use (as for fare on a bus) by a particular group on specified terms

b: a piece resembling a coin issued as money by some person or body other than a de jure government

c: a unit of a cryptocurrency

Bitcoin tokens

2: an outward sign or expression

his tears were tokens of his grief

3

a: SYMBOL, EMBLEM

a white flag is a token of surrender

b: an instance of a linguistic expression

4

a: SOUVENIR, KEEPSAKE

b: a small part representing the whole : INDICATION

this is only a token of what we hope to accomplish

c: something given or shown as a guarantee (as of authority, right, or identity)

5: a member of a group (such as a minority) that is included within a larger group through tokenism

especially : a token employee

6: a distinguishing feature : CHARACTERISTIC

Synonyms for token

Synonyms: Noun

commemorative, keepsake, memento, memorial, monument, remembrance, reminder, souvenir

First Known Use of token

Noun

before the 12th century, in the meaning defined at sense 2



[Google翻訳]

トークン 名詞

トークンの定義 (エントリ1/2)

1

a : 特定のグループが特定の条件で使用するために (バスの運賃に関して) 発行したコインに似た作品

b : dejure政府以外の人や団体がお金として発行したコインに似た作品

c : 暗号通貨の単位

ビットコイントークン

2 : 外向きの記号または表現

彼の涙は彼の悲しみの証でした

3

a : シンボル、エンブレム

白い旗は降伏の証です

b : 言語表現のインスタンス

4

a : お土産、キープサケ

b : 全体を表す小さな部分 : 表示

これは私たちが達成したいことのトークンにすぎません

c : 保証として与えられた、または示されたもの (権限、権利、またはアイデンティティとして)

5 : トークン主義を通じてより大きなグループに含まれるグループのメンバー (少数派など)

特に : トークンの従業員

6 : 際立った特徴 : 特徴

トークンの同義語

同義語 : 名詞

記念、記念品、記念品、記念碑、記念碑、記念品、リマインダー、お土産

トークンの最初の既知の使用

名詞

12世紀以前、センス2で定義された意味で

形容詞

1915年、センス2で定義された意

この二重写しの関係をおろそかにしたために、今世界中で食糧危機とエネルギー危機が起きてゐて、諸国民は苦しんでゐる。この事態にあなたは悪いと、申し訳ないと思はないのか？とドイツの放送の番組でインタビューされたダボスの首領シュバブは言下にドイツ語でNO!と答へた映像がありますが、私はこの回答を聞いて、この男は気が狂つてゐると思ひました。この男の目は、日本語でいふ、死んだ魚の目をしてゐて、顔は無表情で、非常に冷酷な人相をしてゐます。機会があれば、検索してみてご覧なさい。そんな男が来日して今のダ

ボスの猿岸田何某がにこやかな偽の笑顔で握手をして会談したなどといふことは、私たちの国民生活が危ふいといふことを意味してゐます。そのすぐ後にバイデン偽大統領がアメリカから来日、そしてすぐにまたQUAD（日米豪印）の首脳会議が東京で開かれた。これらの点を繋いで線にするのです。このやうな時代のパラダイム・シフティングの時代に生きて、私たちがメタヴァース空間を受け容れて生活するとは一体何かを、IT大手企業のプラットフォーム支配の問題解決の方途とともに、引き続き考へねばなりません。これは一種のトンネルで、私にはまだ出口は見えませんが、答へは、いつもながら、安部公房全集の中にあることとせう。また、この議論はどこかでしたいと思ひます。

## 私の本棚

(45)

西村幸裕著『九条という病』を読む

岩田英哉

言語の観点からこの本の内容を一言でいへば、「九条という病」といふ題名の病といふ言葉が隠喩・メタファであるわけの、隠喩とは本来は譬喩（ひゆ）なわけですが、これが事実になつたといふ現在の事実を、この本は解説してゐる。そのやうな本であるといふことです。即ち、

私の文学的知見によれば、個別言語を問はず、文化が成熟するか退廃するかの極端な状態になつて、それでも依然としてその言語をつかつて生きる人々が隠喩・メタファを使ふ時代には、成熟であれ退廃の極みであれ、その隠喩は事実として世間にイキイキと現実感を以つて生き始めるのだといふことです。これを私は中世ドイツ文学の叙事詩とキリスト教の盛期である13世紀の文学に学びましたが、今これを詳述する暇（いとま）はありません。日本語でも同様のことが今起きてゐるといふことがいひたいのです。絶対的な唯一の何かは極まり、その後に個人の解放が来る。ヨーロッパの14世紀からのルネサンスの始まりがあるやうに。そのやうに著者のいふ「中世スコラ哲学」としてあるかの如き同類の言葉に「平和憲法」といふ言葉があり、この言葉もまたかうして、単なる接列な隠喩にすぎなかつたといふことが明らかに、著者の筆法によつて、されるのです。その極まつた言葉が九条であり、九条は病である。といふ事実なのです。もはや九条と平和憲法が事実であるかの如き夢見る時代は終はつた。曰く、

「実際、我が国の憲法学者なる存在は、中世スコラ哲学の聖職者のやうに、憲法の〈聖書〉としての解釈だけに一生を費やすという世にも稀な滑稽な存在として知られる。」

因みに、本物の中世スコラ哲学者を私は積極的に擁護したいのは、この神学者である哲学者たちの原理的な基礎にもとづく形而上学的議論は煩瑣のやうに見えて実に思考論理上古代ギリシャ哲学に学んで厳密であつて、これを基礎にして此処から近代の17世紀以降の哲学が生まれて、今日に至つてゐるからである。西欧近代の哲学は神学の一部としてのスコラ哲学から生まれたのです。そして其処から科学が生まれた。

さて、しかし、日本国憲法スコラ哲学者たちから何が生まれたか。本物の中世スコラ哲学者は唯一絶対神の存在を証明するために思弁議論した。対して、日

本の偽スコラ哲学者たちは、何の存在証明をするためにものを考へたか。と問ふてみれば、憲法の存在証明など容易いことではないか。何故なら、これは人間が書いた作文の一種であるからには、少しも神聖にして犯すべからざるものではない。と、此処まで書いてきて、なるほど、これは今や括弧付きで「戦前」と書かねばならぬ「戦前」の継続を根底に秘めた無反省の心理から発した、天皇陛下といひたくないがために依頼心を起こして頼つてしまつた実は「天皇陛下」であることが明らかであるといふことになり、その結果自分自身といふ ego が、この哀れな人間である自分が永遠に生きるための糧として日本国憲法を考へ、その挙句に自分が唯一絶対神になつてしまふといふ錯誤をして、自分以外の他人の口を封じて、全体主義国家を生みださう。さうしたら日本の国も世界の諸国もまた、自分に逆らわないから平和であるだらうといふ倒錯した妄想の論理を延々と論じてきたのが、この憲法学者なるものであると、読んだ私には知られるのです。だから、著者は正確には「偽中世スコラ哲学者」と書くべきであつた。勿論、偽物に引導を渡すためである。偽物を許容して生かしてくれる業界は、これもいふまでもなく、骨董品の市場です。

結局、このやうな「偽中世スコラ哲学者」の錯誤の最たるものは、かうしてこの本を読みながら考察を進めると、公私の混同でといふことがわかる。私が子供の頃は、こんな幼稚な心性は、子供とかガキとか呼ばれて、大人たちの間でも軽蔑されてゐたものである。これが政治家や官僚ならば平気で汚職に手を染め、自分の職務の要求する使命も忘れ、従ひ天下国家を忘れ、哲学も形而上学も忘れ、従ひ伝統も歴史も文化も忘れて、自己保身のための嘘と詭弁をつくことになるいふ、今が此の惨状ではないのか、九条どころではない。惨状である。この脚韻は、なかなかいいぞ。

オーソン・ウェルズの名作『第三の男』の中で主人公の口にする名言に今の日本にぴったりの名言がある。「イタリアは、戦争や虐殺が絶えないボルジア家圧政のわずか30年間でミケランジェロやレオナルドダヴィンチ、そう、ルネサンスを生み出した。しかし、スイスはどうか。民主主義と平和の500年の慈愛に満ちた歴史は一体何をもたらしたのか。鳩時計だ。」 (<https://eiga.com/movie/46413/review/02289307/>)

このセリフを次のやうに言ひ換へよう。

「日本は、海外で戦争や虐殺が絶えない平和憲法圧政のわずか80年間で大江健三郎や村上春樹、そう、共産主義者を生み出した。しかし、憲法学者はどうだ？「戦後」民主主義と平和憲法による80年の慈愛に満ちた歴史は一体何をもたらしたのか？骨董市で今やただ同然で売られてゐる骨董学者たちだ。」

## 遁走倶楽部

(2)

エピチャム語から本邦初の翻訳

作者 S・カルマ氏

翻訳 岩田英哉

### 目次

- 01\_デアンドール岩の祝祭
- 02\_カフェ・セラピオンの読書会
- 03\_町の地図 (或いは幕の内弁当に関する考察)
- 04\_虚体祭
- 05\_堂宇の殺人
- 06\_コギト革命
- 07\_ほとさらい
- 08\_黄金の時代精神亭での酌酩
- 09\_書記の部屋

\*\*\*

### 第5章 堂宇の殺人

(待て次号)

## 日本一極国家論（続篇）

### GAME CHANGE理論

#### （6）

岩田英哉

#### 目次

- 1。前編
- 2。後編
- 3。GAME CHANGE理論
  - （1）古いゲーム・ルール：アメリカと中国の共通性
  - （2）古いゲーム・ルール2：アメリカのゲーム・ルール：一般論
  - ①文化：無制限の大衆化・通俗化文化：「いつでも・どこでも・誰にでも」（例：コカコーラ、ジーンズ、コンビニエンス・ストア、クレジットカード、ディズニーランド等々）
  - ②政治：自作自演の詐欺的言辞を弄する：世界普遍性を欠いたアメリカ土着の民主主義の他国への、謀略（自作自演）と軍事力を使つた強制
  - ③経済：道徳を欠いた国際金融資本主義、いはゆるグローバリズムといふ名前の共産主義経済の他国への謀略（自作自演）と軍事力を使つた強制

#### 新ゲーム・ルール

##### 対アメリカ帝国：

- （1）新ゲーム・ルール1（アメリカ帝国向け）：一般論
- （2）新ゲーム・ルール1.1（アメリカ帝国向け）：個別論
- ①文化領域
- ②政治領域
- ③経済領域

##### 対中華帝国：

- （3）新ゲーム・ルール2（中華帝国向け）：一般論
- ①支那とは何か中国とは何か
- ②中国の経済の構造
- ③中国の政治の構造
- （4）新ゲーム・ルール2.1（中華帝国向け）：個別論

##### 対ロシア帝国：

- （5）新ゲーム・ルール3（ロシア帝国むけ）：一般論
- （6）新ゲーム・ルール3.1（ロシア帝国むけ）：個別論

[対ロシア帝国] の中身は2022/0312  
現在未定]

#### 4。GAME CHANGE理論（日本篇）

- 4.1.1 国民にとって理想の政府とは何か
- 4.1.2 現行日本国憲法無効化論

Intermezzo：文明の衝突篇: ハンチントン著『文明の衝突』からウクライナ問題を考察する

- 4.1.3 日本国家核ミサイル保有論
- 4.1.4 北朝鮮拉致被害者奪還論
- 4.1.5 日本駐留米軍退散論
- 4.1.6 日本中央銀行廃止論
- 4.1.7 尖閣諸島問題解決論
- 4.1.8 竹島及び北方領土奪還論
- 4.1.9 国体明象論（国体明徴論ではない）
- 4.1.10 国制明象論（国制明徴論ではない）

## Intermezzo：文明の衝突篇：ハンチントン著『文明の衝突』からウクライナ問題を考察する

ハンチントン著『文明の衝突』に挙げられてゐる14項目を吟味して英欧米の没落を証明せむといふ試みです。

同著「第四章 西欧の落日:力、文化、地域主義」の最初の節の「西欧の力:支配と衰退」に次の13項目が、西欧米による他諸国・他文明を絶対的に支配する野望(といふべきである)の、此の著作刊行時点で確かにさうであつたのは、ここにある通りの次の項目です。項目列挙の前段の当時の事実の解説部分も併せて引用します。しかし、これが明らかに壊されまたは自壊してゐる様を私たちが今目にしてゐるのは、2022年・令和4年2月24日に東欧およびロシアの共有する地域でウクライナ紛争が勃発したからである。

### 「第四章 清掃の落日:力、文化、地域主義 西欧の力:支配と衰退

西欧は世界の他文明との関係において、二つの顔をもっている。一つは、圧倒的な優位に立ち、西欧のほぼ全域を支配して勝ちほこる姿である。西欧に対する事実上唯一の対抗勢力であつたフォヴィエト連邦が崩壊し、世界のありかたは欧米の主要国が目指し、重視するもの、さらには自分たちに利益をもたらすものによって決められようとしている。そしてここに、ときとして日本がからんでくる。ただ一つの超大国となつたアメリカは、イギリスやフランスとともに政治と安全保障の分野の決定権をにぎることとなつた。アメリカはまたドイツや日本とともに、経済における決定権をもにぎっている。西欧諸国は、他のすべての文明圏や地域にたいして巨大な利害関係をもつ唯一の文明圏であり、他のあらゆる文明圏や地域における政治、経済、安全保障の分野で、西欧ほどの影響力をおよぼしうる国家群はほかにない。西欧をのぞく残りすべての文明圏に属する国々は、通常、西欧の助けがなければ、みずからの目標を達成したり利益を守ったりすることもままならない。西欧が保持するこのような力、ある人物は次のように整理した。

- 国際的な金融機関を所有し運営する
- ドルと交換可能な世界中の通貨をすべて支配する
- 世界の主要な購買者となる
- 世界に流通する完成品の大部分を生産する
- 国際資本市場を支配する
- 多くの社会において、倫理価値観の面で多大な指導力を発揮する

- 大規模な軍事介入を行うある能力を持つ
- シーレーンを支配する
- 最先端科学の研究・開発をする
- 最先端の技術教育を提供する
- 宇宙の利用を支配する
- 航空産業を支配する
- 国際通信を支配する
- ハイテク兵器産業を支配する

西欧のもう一つの顔は、前述のものとは大きく異なる。(略)」

上記14項目を一つ一つ、このウクライナ問題勃発を契機に吟味してみよう。  
次のやうになる。●では整理できないので付番します。

- 1 国際的な金融機関を所有し運営する
- 2 ドルと交換可能な世界中の通貨をすべて支配する
- 3 世界の主要な購買者となる
- 4 世界に流通する完成品の大部分を生産する
- 5 国際資本市場を支配する
- 6 多くの社会において、倫理価値観の面で多大な指導力を発揮する
- 7 大規模な軍事介入を行うある能力を持つ
- 8 シーレーンを支配する
- 9 最先端科学の研究・開発をする
- 10 最先端の技術教育を提供する
- 11 宇宙の利用を支配する
- 12 航空産業を支配する
- 13 国際通信を支配する
- 14 ハイテク兵器産業を支配する

1 国際的な金融機関を所有し運営する。

これはBIS>ECB(ヨーロッパ)、BIS>日本銀行、BIS>FRB(アメリカ)として、BIS(国際決済銀行)が世界的な統制をとることができるやうにしてある。この世界的な統制をする主語は、Deep Stateである。Deep Stateの定義は次の通り(『ネット・モナド論(29):ロスチャイルドとは何か』もぐら通信第155号より)。

#### ディープ・ステートの定義

ディープ・ステートとは、アメリカの民主党、メディア、並びに諜報機関・軍



事及び政治の代理人たちからなる連携から構成されてゐる地下ユダヤ人国家である。（以下「補足説明」略）

今やDSの正体が白日のもとに照らされて、地下に潜ることができなくなった。それが令和の今です。

## 2 ドルと交換可能な世界中の通貨をすべて支配する

これもウクライナ問題の発生で、不可能な事態となつた。この支配を破つたのは、ロシアである。中国も並走してゐる。

## 3 世界の主要な購買者となる

これも中国にその座を、アメリカは奪はれた。これにインドも並走してゐるのであらう。

## 4 世界に流通する完成品の大部分を生産する

この座も中国に奪われた。

## 5 国際資本市場を支配する

これもウクライナ問題で支配ができなくなった。この契機はロシアがウクライナへの部分的侵攻によつてつくれた。

## 6 多くの社会において、倫理価値観の面で多大な指導力を発揮する

これがグローバリズムであるが、これもはつきりと崩壊したのは、ロシアのウクライナへの侵攻による。

## 7 大規模な軍事介入を行うある能力を持つ

この能力をアメリカが持たないことは、アフガニスタンからの無様なアメリカ軍の撤退とロシアのウクライナ侵攻に対しての直接的な軍事介入の回避によつて明らかとなつた。

## 8 シーレーンを支配する

これも中国の南シナ海の進出で、絶対的な支配力をアメリカは失つた。

## 9 最先端科学の研究・開発をする

これは細菌兵器として利用したことで、大手の製薬会社とダボス会議との関係をアメリカは疑われるやうになつてゐる。要するに、研究・開発の目的が悪である世界征服のための世界統一政府の樹立であることが明らかになつたからである。

10 最先端の技術教育を提供する

これも同様に各国での浸透にこれから歯止めがかかるであらう。

11 宇宙の利用を支配する

これも中国が対抗してきて、絶対支配ではなくなった。

12 航空産業を支配する

これは、もっぱら核ミサイルの開発と戦闘機や輸送機に焦点を当てて読むことになるといふ側面を有する。本来の航空産業とは何かといふ問は残しておきたい。後日の課題とする。

13 国際通信を支配する

これは中国のファーウェイなどの企業の侵略をアメリカ自身が自らに許したことで、この絶対支配は無くなった。

14 ハイテク兵器産業を支配する

これも中国に追いつかれてくることで、絶対的支配はなくなった。既存の勢力としては依然としてロシアがある。

以上を一覧性のある表にすると次のようになる。かうして見ると、イスラエルまたはインドから日本が核ミサイルを購入し同時に技術提供を受けることは、日本の対米・国家自立の国家戦略の視点からは現実的に有効であることがわかる。

アメリカ・西欧(Deep Stae・ダボス会議) に対する対抗国・敵対国・妨害国		害国 アメリカ・西欧(Deep Stae・ダボス会議) に対する対抗国・敵対国・妨害国						
2022/06/14 eiya iwata	西欧米の絶対支配の有無(OX方式)	中国	ロシア	インド	中近東諸国	イスラエル	アメリカのいふテロ国家	その他の国家
1 国際的な金融機関を所有し運営する	x	○	○					
2 ドルと交換可能な世界中の通貨をすべて支配する	x	○	○	○	○			
3 世界の主要な購買者となる	x	○		○				
4 世界に流通する完成品の大部分を生産する	x	○		○				
5 国際資本市場を支配する	x	○	○					
6 多くの社会において、倫理価値観の面で多大な指導力を発揮する	x	○	○	○	○	○		
7 大規模な軍事介入を行うある能力を持つ	x	○	○			○		
8 シーレーンを支配する	x	○	○					
9 最先端科学の研究・開発をする	x	○	○	○		○		
10 最先端の技術教育を提供する	x	○	○	○		○		
11 宇宙の利用を支配する	x	○	○					
12 航空産業を支配する	x	○	○					
13 国際通信を支配する	x	○						
14 ハイテク兵器産業を支配する	x	○	○			○		

これは、私の日本国家の既に此の論考の最初に揭示済みの四角錐の図形の国家戦略に一致するものです。

政治：日本の自主憲法の制定（パラダイム・シフトの転換点にある今、この古い現法の大前提が崩れたので、改定ではダメ。無駄な努力で、百害あつて一利なし）

経済：円通貨基軸経済圏の構築

軍事：インド・太平洋戦略の執行

文化：日本文化の輸出（例：本居宣長学院の創設と日本語の海外普及等々）

（この4つが新大東亜共栄圏、即ち第二次大東亜共栄圏の四面である）

如何？国が一つにまとまりさうな気がしませんか？

4.1.3 日本国家核ミサイル保有論(軍事)

4.1.4 北朝鮮拉致被害者奪還論(軍事)

4.1.5 日本駐留米軍退散論(軍事)

(続く)

ネット・モナド論

(31)

プーチンは何を考へてゐるか3

～USD/JPY as of 13 June, 2022 のマップ(地図)からわかること～

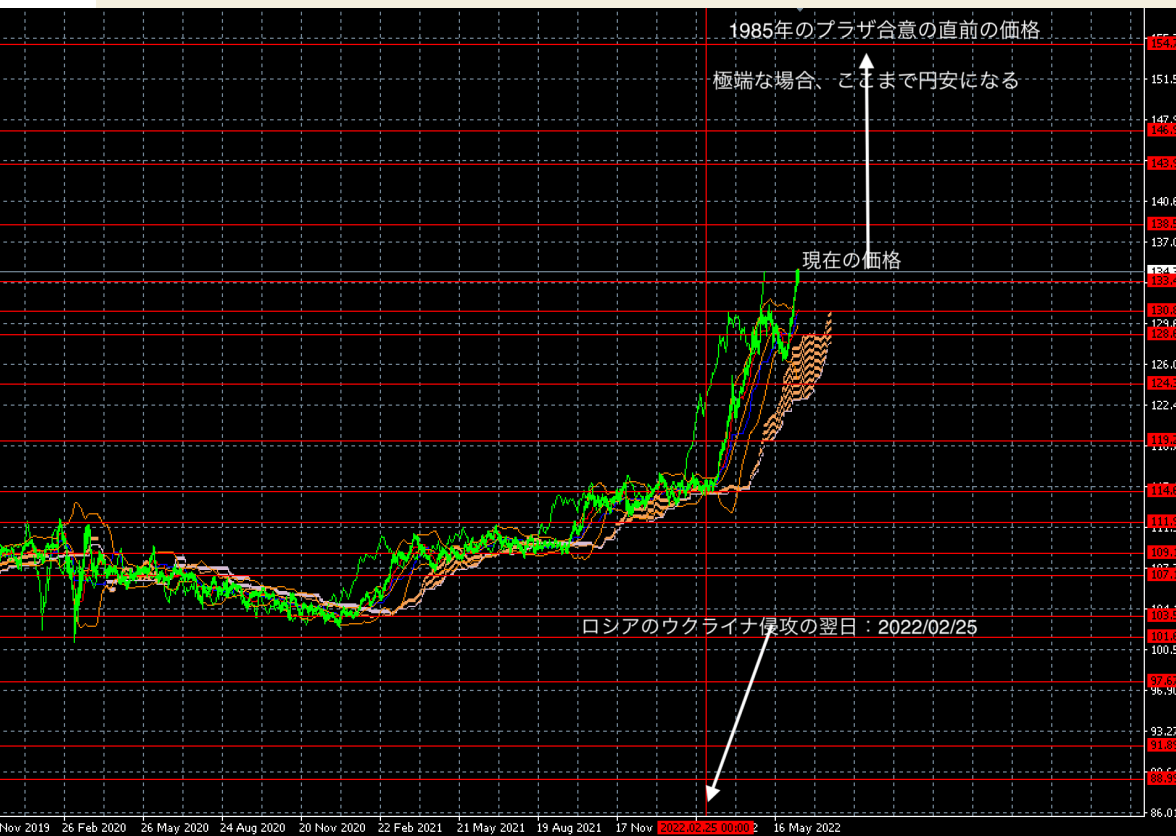
I. USD/JPY as of 13 June, 2022 のマップ(地図)からわかること

「あなたの中の相場師」殿

(芥川受賞作『壁』収録の「事業」の最後にある宛先を真似て)、

標記のマップ (相場の地図) を以下に転載しますので、ご覧ください。これは、一目山人の 創造になる一目均衡表です。一番遠眼鏡で見たドル/円の相場地図がこれです。その後に、この地図を見て知ることのできることを、政治と経済についての国際情勢も含めて箇条書きで列挙します。問題は、日本国の位置がどこにあるのか?といふことです。これが分かれば国内の政治及び経済に関する 政策が決定できます。

最初に一目の名の通りに、一目見て相場の全体の均衡の判るのが一目均衡表 の名前だといふことをご銘記願ひたい。ざっと一目で見える見方は、世界は隙間であり差異でありますから、空白や幅のある場所(topos)に力が隠れてゐて、そこに売り買いのエネルギーがあるといふことを考へて下さい。



それから、同時に、過去の地図に回帰して、一番このMT4の性能で戻ることのできた1985年のプラザ合意時点での価格、それから、一体いつの時点でこんな

急騰が始まったのか、これを図中に文字で書き込みましたので、これも参照して下さい。以下、判ることを列挙します。

1. この対ドルの円安は、ロシアのウクライナ侵攻直後に急騰した。
2. 円は、極端な場合には154.736円といふ当時の合意直前の価格まで下落する。この地図を見る限り、ゴールドマンサックスの元会長のいふのとは異なり、正反対に円は下落を続ける。上昇しない。アメリカのインフレが止まるまで上昇はなく、いつそのインフレが止まるかは全くアメリカは計算できてゐない。
3. いつまで下落を円は続けるかといふと、その抵抗線・反発線・敷居線は次の通り。

- (1) 138.554
- (2) 143.950
- (3) 146.992
- (4) 154.736

この節目の抵抗線のところにくるたびに、政治と経済の世界で何事かが起こることがあり得る(蓋然性・probabilityの確率で)。

4. プラザ合意の時には、主要西側諸国で話をして合意をすれば外国為替の調整ができたが、今回はさうではなく、いはばロシアの軍事行動によつて強制されて生まれた結果である。

5. この事実の示すものは、もはやドル基軸一極体制の覇権国アメリカと其の連合国の人工的な調整では、この日以降対ドルでの関係各国の国家単位による為替の調整と制御は不能になつたといふこと。これは、私たち日本人も心に銘記すべきであること。この判断はこの地図のみではなく、これまでの一次資料の読み込みによるこの地図の意味するところを解いたものである。

6. 対円の他の主要西側諸国の相場の地図を眺めても、ユーロ以外は、対ドルでのやうな極端な相対する通貨の急騰と急落は見られないので、これは円とドルとの関係に於ける独特な現象と捉えることができる。参考までに、対円での他の通貨との地図を以下に示します。

7. 上記5の意味するところは、これまであちこちで論じ言及してきた通り、ルーブル基軸通貨圏(既に出現してゐる)、その他人民元基軸通貨圏、インド・ルピー基軸通貨圏、中東のこれから生まれる基軸通貨圏等々といふことになります。



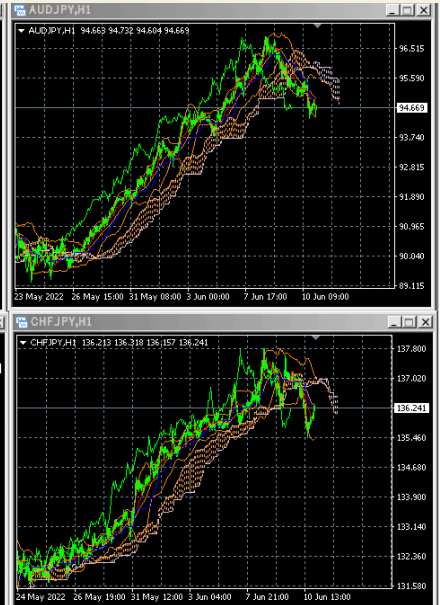
ドル/円相場の地図



EUR/JPY



AUD/JPY



GBP/JPY



CAD/JPY



CHF/JPY



8. この対ドルに対する円安は、プラザ合意を思い出せば、恐るものではない。とすれば、当時の経済体制に日本の経済の構造を戻せば良いのか?といふ問いが立つが、しかし当時は円安を意図的に円高に、それもアメリカの要求に従ってアメリカ国内経済政策のために日本が強ひられた円高であつたが、今回は様相が異なるので、単純に回帰すればよいといふものではない。今回は円安であるから。

9. 一番皮相的ではあるが、それだけに、次の榊原英資著『「通貨」で読み解く世界同時恐慌』(2012年刊)は参考にすることができる。曰く、

「政府も企業も個人も、円高を前提として、では円高メリットをどう生かせばよいかという発想に転換すべき。円高メリットを生かすには、円を日本の国外に出して使うことが必要です。」(「円高ドル安・ユーロ安!どうなる?日本経済」同書182ページ)

この文章の内容の内部と外部を等価交換すると次のようになる。

「政府も企業も個人も、円安を前提として、では円安メリットをどう生かせばよいかという発想に転換すべきです。円安メリットを生かすには、円を日本の国内に戻し入れて使うことが必要です。」

と、このようになるでせう。その場合の章の見出しは「円安ドル高・ユーロ高!どうなる?日本経済」といふことになります。

上掲の相場地図の示す通りに、ドルとユーロは対円でかなりの相似形を描いてみますので、対円ではドルとユーロは手を結んである。といふこの構図だけは、プラザ合意の当時とこれだけは変わらない。もはや日本だけが損をするといふ判断を政治家や官僚には捨ててもらひたい。敵に塩を送る必要はない。ロシアを見習ふべきである。

10。上記8の「対円ではドルとユーロは手を結んである。といふこの構図だけは、プラザ合意の当時とこれだけは変わらない。」といふ結論を見ても、もはや日本円はアジアと太平洋に円貨を基軸通貨とした、インド・太平洋共栄圏を築くことを考へる時代であると私は考へる。第二次大東亜共栄圏です。今度は負けてはならない。

11。そしてまた当時と同じであることは、大陸に中国共産党といふ敵国があるといふことである。ここからは政事、経済事について軍事の領域になるので、以上ここまでとする。

12。以上書き終えての素朴な疑問

何故、アメリカは円を売って、ドルをキャッシュで手に入れたいのであろうか。

ドルとユーロの地図の相似系の意味するところは、アメリカとEUの共同でのドルの調達といふことであらうか。さうであれば、ロシアのウクライナ侵攻翌日からの円安は、戦費調達といふことで説明がつくが、如何か。といふことならば、次の質問は、アメリカは何故戦時国債をFRBから購入しなかったのであろうか?もしそれだけの力が今の米政府にないのであれば、これは20世紀100年来、といふか明治維新150年来の「詐欺師のための資本主義」の崩壊を意味する、如何か。地域的に強い通貨を基軸にした多極・経済圏分立です。

上の私の根拠のない推理の当否は、アメリカの国家としてのバランス・シートの吟味を要する。結局、資本主義の構成単位は株式会社(投資と生産活動)と家族・家庭(消費と貯金活動)であるので、株式会社のバランス・シートを見ることになる。それと各家族・家庭のバランス・シートも。これらが健全であれば、即ち手持ちの資産や資金よりも借金が少なければ、よし、多ければ悪(あ)し、といふことになりますが、果たしてどうか。これは後日の課題とします。

End of Memo

## II. 日本の金融システム崩壊論

「あなたの中の経済評論家」殿

翻訳：岩田英哉

今の円安を海外、といつても西欧米であるが、どのやうに見てゐるか、解釈してゐるかの見本が、これです。読んでみて、最後に私の理解と解決策を箇条書きに列挙しましたが、要するに馬鹿にされてゐるといふこと、日本人が奴隷のごとくに思はれてゐて舐められてゐるといふことです。

以下翻訳文です。原文の英語はいつもの通り其の後につけました。また翻訳者の意見と註釈はこれもいつもの通り [ ] の中に書き入れました。この論の結論を一言でいふと以上の通り。「西欧米に舐められてゐる日本」。和訳の後に英語原文が続きます。各方面の専門家の検証をお願いしたい。

### 日本の金融システム崩壊論

[本文和訳]

金融市場における「劇的で予測不可能な非線形性」を伴う経済のシステム崩壊の危機に瀕している日本に対してDB (Deutsche Bank) は警告する

(<https://www.zerohedge.com/markets/japan-verge-systemic-collapse-dramatic-unpredictable-non-linearities-financial-markets-bank>)

投稿者：タイラー・ダーデン、火曜日、2022年6月14日-05:55 PM

1週間も経たないうちに、「円が衝突して壊れる方へと加速するにつれて、MMTによる実験の壊滅的な終焉が脚光を浴びる」と書いたが、今朝ブルームバーグは、「円建の株と国債(bonds)に突然崩壊する事態が生じるにつれて日本は亀裂を始めている」と書いてみて、円が24年ぶりの安値に急落したにもかかわらず(同じ理由で、10年国債の利回りを0.25%に維持し、灼熱のインフレ環境で通貨の崩壊を回避することはできないと何度も何度も繰り返し述べて来たのだが)、東京の株式市場は3月以来最も下落しました。

[ここまでで述べられてゐることは、日本銀行の決めた今回の金利と株価の下落と円の対ドル価格の急落と円に対する海外による低評価の因果関係であることが解る]



しかし、別の大きな進展があり、フィアット通貨 [註1] としての円の寿命の日数とMMTの実験の破綻までの日数が数えられていることになったといふ事実を示唆するものがありました。日本の利回りが急上昇しているため、日本銀行は本日、10年ものの利回り曲線管理目標(Yield Curve Control="YCC")を守るために1.5兆円以上の政府の国債を購入し、その結果、国債の利回りは、日銀のYCC回廊 [註2] の上限である0.25%を上回った。

[この段落で述べられてゐることは、日銀の維持しようとしてゐる国債金利0.25%の管理よりも、「10年ものの利回り曲線管理目標(Yield Curve Control="YCC")を守るために1.5兆円以上の政府の国債を日銀が購入し」といふ事実が述べられてゐる。この曲線上での後者の10年ものYCCの上昇線が上抜けしての交差が何を意味するものなのか。論じてゐることは、この日銀の判断が原因で、海外からの日本円に対する信用は急落してゐるといふことと、この事実が対ドルと対EURO相場で示されてゐるといふ事実を述べてゐる。

他方、これでは、円が実体を欠いたフィアット通貨であつて、あのスイス本社のクレディ・スイスのハンサム・ボーイ・アナリストの論文Bretton Woods IIIによれば(ダウンロードはこのURL。荒い訳であるがご勘弁：<https://docdro.id/QrUuqSh>)、この円といふ(人の生命を維持するために必要な実体としてあるべき一次通貨—金・銀・小麦・米・エネルギーなどの国家経営資源の実体—を欠いた)フィアット通貨は、inside moneyだけの世界では、もはや相場を形成し維持することができず、同時に国債は理論上必要なだけ発行しても財政破綻はないと主張してゐるMMT理論の限界に達すると言つてゐて、その限界点が、上記の日銀の管理目標である二つの管理利回りの交差点であると述べてゐることが解る。

問：何故日銀は10年ものの国債の利回りを巨額の資金を投じてでも守ろうとしたのか？

答：この投稿の主張によれば、

「日本の利回りが急上昇しているため、日本銀行は本日、10年ものの利回り曲線管理目標(Yield Curve Control="YCC")を守るために1.5兆円以上の政府の国債を購入し、その結果、国債の利回りは、日銀のYCC回廊の上限である0.25%を上回った。」

のですから、

(1) 日銀は「10年ものの利回り曲線管理目標(Yield Curve Control="YCC")を守るために」、即ち、10年ものの利回り目標(これはここには書かれてゐな



い) を維持するために大量にこの国債に買いを入れて、即ち結果として10年ものの国債金利も其の管理目標を超えて上昇し、「その結果、国債の利回りは、日銀のYCC回廊 [註A] の上限である0.25%を上回った。」といふことである。この場合の0.25%を上回った国債金利とは10年ものの国債だけなのであろうか、それともそれ以外の期限の国債ものの金利なのであろうかと自問自答すると、どのような種類の国債の全体に対する目標管理の金利が0.25%であると理解することができる。

問1：何故10年ものの国債の金利が目標管理金利よりも高くなつては行けないのだろうか？

問2：それが何故MMT理論の実験の失敗になるのだろうか？

問3：日本はMMTの実験国ではない。むしろEUこそがMMTを積極的に採用して金融政策を決めてきた地域ではないか。その分析をするとどうなるのか？

問4：EUの金利政策は、それではMMTによつて正しい政策なのか、それともそれ故に今間違つた結果を招来してあるのか？

問5：なぜ、国債の金利の目標管理レシオが0.25%なのだろうか？その根拠は何か？

問6：この目標値はMMT理論によるものではないことは明らかである。

答6：といふことであれば、この投稿の日銀政策への指摘と批判は、MMTの視点からは間違つてあるといふことになる。

問7：それでは、この投稿者は何の理論に依つてこの発言をしてあるのか？

以上が私の疑問である。]

[註1]

IG証券：[shorturl.at/pA019](https://shorturl.at/pA019)

フィアット通貨の定義

フィアット通貨とは

フィアット通貨とは不換通貨(紙幣)の意味です。この通貨は、金や銀といった一定の価値が担保されている商品価格の裏付けがない通貨です。フィアット通貨の価値は、主にその通貨の発行者(通常はその国の政府または中央銀行)に対する国民の信頼によって担保されています。

フィアット通貨と商品貨幣

フィアット通貨とは別に商品貨幣があります。商品貨幣の価値は、金貨や銀貨といった一定の価値がある商品によって担保されています。一方、フィアット通貨には商品という実物に裏付けされた価値はありません。上で述べた通り、フィアット通貨の価値は主にその通貨の発行者(通常はその国の政府または中央銀行)に対する国民の信頼によって担保されています。



### フィアット通貨の例

フィアット通貨のほとんどは米ドル、ユーロ、英ポンドといった通貨になります。

### フィアット通貨の長所と短所

#### フィアット通貨の長所

フィアット通貨は供給量があらかじめ決まっている金とは違い、その国の中央銀行の政策によって供給量を決定することができます。このため各国の中央銀行はフィアット通貨について強力な権限を持っています。この権限により政府は、マネーサプライ（貨幣の供給量や流動性）を経済情勢に合わせて変更することができます。

商品通貨とは異なり、フィアット通貨の供給は各国政府と中央銀行によってコントロールされています。このため予期せぬ通貨価値の切り下げといったリスクをコントロールすることができます。

#### フィアット通貨の短所

フィアット通貨の価値には実物による裏付けはありません。政府に対する国民の信頼が価値の担保となっています。このため政府が無責任な金融政策を実施する場合、政府に対する信頼が低下することでフィアット通貨の価値も減価します。

政策の失敗はフィアット通貨の減価をもたらすだけでなく、大量の通貨（貨幣）が株式市場や不動産市場に流入することでバブル経済を発生させる要因ともなり得ます。

中央銀行の政策とバブル経済の関係を考える上で量的緩和政策が最もわかりやすい例となります。この政策は中央銀行が市場から国債等を買入れ、買入れ分に相当する資金を市場に流入させる政策です。量的緩和の目的は景気回復にあります。あまりに長期にわたり大量の資金を市場に流入させると、株価や不動産価格が高騰する原因となります。その結果、実勢相場から乖離した価格が形成されバブル経済が発生します。

### [註2]

Webster Onlineより：

Definition of corridor

1

a: a passageway (as in a hotel or office building) into which compartments or rooms open

b: a place or position in which especially political power is wielded through discussion and deal-making

was excluded from the corridors of power after losing the election

2: a usually narrow passageway or route: such as [普通は次のような狭い通路または定例的な通り道]

a: a narrow strip of land through foreign-held territory [海外に保有する領域を通ってゐる土地の狭い地目]

b: a restricted lane for air traffic [飛行機のとぶ往来のための制限された狭い通行路]

c: a land path used by migrating animals

3

a: a densely populated strip of land including two or more major cities

… the Northeast corridor stretching from Washington into New England …

— S. D. Browne

b: an area or stretch of land identified by a specific common characteristic or purpose



a corridor of liberalism  
the city's industrial corridor

DBのGeorgeSaravelosが今朝の投稿で「紙幣増刷のマネー・プリンターはオーバードライブ中です」と衝撃的に計算し、ZH (ZeroHedgeといふこの媒体発行者) のプロの購読者が利用できるように、現在の購入ペースが続く場合、普通にいつて一般的な銀行は6月に約10兆円を購入することになる。その数を然るべき文脈に当てはめると、GDPを調整するときに連邦政府が月に3,000億ドル以上のQE [註3] を行うのとほぼ同じです。

[註3]

QEの定義 (SMBC日興証券：<https://www.smbcnikko.co.jp/terms/eng/q/E0079.html>)

QE (キューイー)

QEとはQuantitative Easingの略で、量的緩和 (政策) を指します。量的緩和は各国の中央銀行が市場に大量に資金を供給することで、デフレの脱却や景気を刺激することを目的として行うものです。米国で行われたQEのうち、2008年11月~2010年6月までが「QE1」、2010年11月~2011年6月までが「QE2」、2012年9月~2014年10月は「QE3」と呼ばれています。



世界の他のすべての中央銀行が政策を厳しくしていることを考えると、これは「本当に極端な」レベルのマネー・プリンティング (紙幣の増刷) です。それが私たち [海外投資家] が円に弱気であった理由の一つです。そして、多くの人が主張しているように、円安の原因は日銀そのものである [註4] ことを考えると、この環境への通貨介入は単純に信頼できません。

[註4]

この考へは間違つてゐることは、既に『USD/JPY as of 13 June, 2022のマップ (地図) からわかること (v2)』で論証した通りである。日銀のoperationは不可解であるにせよ、少なくとも日銀だけがこの円安の原因ではない。最も考えられる原因は、これは例によつて例のごとくアメリカと、そしてEUの意志の反映であらうといふことである。この私の分析のダウンロードは：<https://docdro.id/o36LgmQ>

より広義には、Saravelosは、MMTの終りを予測した論考の中で私たちが言ったことを反映して、「通貨と日本の金融市場は、あらゆる種類のファンダメンタル・ベースの評価アンカー [註5] を失う過程にある」と懸念していると書いています。

[註5]

Webster Onlineより。この場合の意味は赤字にした意味である：

Definition of anchor (Entry 1 of 2)

1: a device usually of metal attached to a ship or boat by a cable and cast overboard to

hold it in a particular place by means of a fluke that digs into the bottom

2: a reliable or principal support : MAINSTAY [信頼できるまたは中核である原則的な支持根拠]

a quarterback who has been the anchor of the team's offense

3: something that serves to hold an objet firmly [対象を確実に掌握するために奉仕しまたは役に立つ何か]

a bolt-and-nut cable anchor

4: an object shaped like a ship's anchor

5: a broadcaster (as on a news program) who introduces reports by other broadcasters and usually reads the news : an anchorman or anchorwoman

a TV news anchor

6: the member of a team (such as a relay team) that competes last

7: a large business (such as a department store) that attracts customers and other businesses to a shopping center or mall

8mountaineering : a fixed object (such as a tree or a piton) to which a climber's rope is secured

at anchor

: being anchored

a ship at anchor



世界的なインフレーションが上昇すればするほど、日銀のマネー・プリンティング（紙幣の増刷）は多くなります。しかし、この金融緩和が加速すればするほど、インフレーションの崖が近づくときにブレーキを強く踏む必要性が高くなり、それはより危険な状態になります。その結果、DBのストラテジストによると、日本の金融市場における劇的で予測不可能な非線形的な動き [註6] が始まる段階に間もなく入るので、とこのDBのストラテジストは書いてみますが続けて、”日銀の市場の達成水準は日銀の25の基礎的なポイント数値の目標を上回ることであるので、これ以上債券を保有するインセンティブは何ですか？”と問ふてゐる。

[註6]

この非線形的な複数の動きが何かは書いてゐない。

この質問は、私たちにいくつかの爆発的な更なる質問を残します：

質問1：日銀は日本政府の債券（国債）の全額を吸収する用意がありますか？

質問2：このシナリオでの円の公正な価値はどこにあり、日銀が考えを変えるとどうなりますか？

質問3：日銀はインフレーションを生み出したいと思うかもしれませんが、それは完全な経済システムの崩壊を引き起こすことになりませんが、どのようにそれを

達成するのでしょうか？

最後に、円がフィアット通貨の断崖 [註7] から離れて修繕し分解修理する時に、円建ての貯蓄の国内保有者がドルまたは暗号のいずれかに逃げた場合、どうなりますか？その答えの結果は、すぐにわかることとせう。

[註7]

この断崖とはあのBretton Woods IIIの論文に書いてあるツケといふ損害をツケ廻して最後に誰かがババを引くことになるといふ比喻で論じてみるこれまでの近代西欧米の金持ちのためだけの「詐欺師のための資本主義」（これは私の命名）の結末を、日本が最後にババをひくことを「円がフィアット通貨の断崖 [註7] から離れて修繕し分解修理する時」と言ってみるのである。日本の庶民は国内では円を信用してゐるので「ドルまたは暗号のいずれかに逃げ」ることはしない。とすれば、日本の政府と日銀の責任をもつてなすべきことは、今の政策と逆の政策を執行することである。この最後の段落は、私には日本が西欧米の資本保有者たちから馬鹿にされて、さあ、お前たち阿呆な日本人よさっさと、プラザ合意の時と同じく俺たちのいふことをきいてババを引くんだな。といふセリフに聞こえる。

わたし（翻訳者）の解決策。2は3と4に関係する。3と4は期待である。：

- 1。日銀の廃止
- 2。今の岸田某政権の即座の退陣
- 3。7月来月の参議院選挙での与党の大きな敗北
- 4。第三政党の大きな躍進
- 5。新政権下での経済政策の見直し（この中には軍事費も含まれる）
- 6。本当の意義における**資本主義に関する経済学的真理**に基づいた世界に通用する普遍性ある教育の徹底。投資教育などはその次で良い。
- 7。本件対ドル・対ユーロの円安問題に関係する国際機関からの即座の脱退
- 8。上記7に関連して国益に支障の生ずる国際機関からの即座の脱退
- 9。その他諸処にて開陳して来た上記1から8に関連する解決策

\*\*\*

Japan On Verge Of Systemic Collapse With "Dramatic, Unpredictable Non-Linearities" In Financial Markets, DB Warns

(<https://www.zerohedge.com/markets/japan-verge-systemic-collapse-dramatic-unpredictable-non-linearities-financial-markets-bank>)

BY TYLER DURDEN TUESDAY, JUN 14, 2022 - 05:55 PM

Less than a week ago, we wrote that "As Yen Crash Accelerates, It Puts Catastrophic End Of MMT Experiment In The Spotlight" a less than cheerful



assessment echoed this morning by Bloomberg, which writes that "Japan Starting to Crack as Yen Tumbles With Stocks and Bonds" noting that despite the yen crashing to a 24-year low (for the same reasons we have repeated again and again, namely you can't keep your 10Y yield at 0.25% and avoid a currency collapse in a scorching inflationary environment), Tokyo stocks were down the most since March.

But there was another major development, and one which suggests that days of fiat, and MMT are numbered: with Japanese yields surging, the Bank of Japan today bought more than 1.5 trillion yen of government bonds to defend its yield curve control target as the 10Y JGB rose above 0.25%, the upper end of the BOJ's YCC corridor.

As Deutsche Bank's George Saravelos shockingly calculates in a post this morning titled "The printer is on overdrive", and available to professional ZH subscribers, if the current pace of buying persists, the bank will have bought approximately 10 trillion yen in June. To put that number in context, it is roughly equivalent to the Fed doing more than \$300bn of QE per month when adjusting for GDP!

This is a "truly extreme" level of money printing given that every other central bank in the world is tightening policy. It is one of the reasons why we have been bearish on the yen. And as so many have argued, currency intervention in this environment is simply not credible given it is the BoJ itself that is the cause of yen weakness.

More broadly, Saravelos echoes what we said in our preview of the end of MMT, writing that he worries that "the currency and Japanese financial markets are in the process of losing any sort of fundamental-based valuation anchor."

The more global inflation picks up, the more the BoJ prints. But the more easing accelerates, the higher the need to press hard on the brake when the (inflation) cliff approaches and the more dangerous it becomes. As a result, we will soon enter a phase where dramatic and unpredictable non-linearities in Japanese financial markets would kick in, according to the DB strategist, who also notes that "if it becomes obvious to the market that the clearing level of JGB yields is above the BoJ's 25 basis point target, what is the incentive to hold bonds any more?"



This leave us with a few exploding questions:

Is the BoJ willing to absorb the entirety of the Japanese government bond stock?

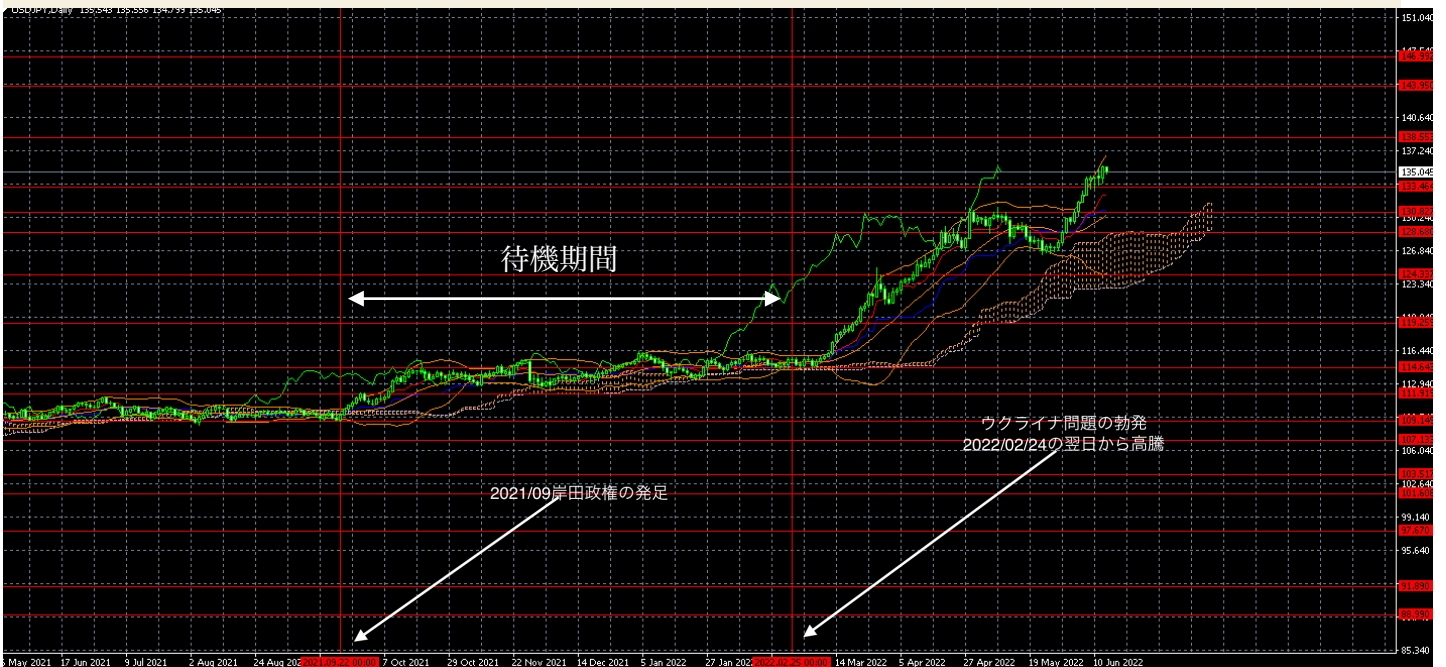
Where is the fair value of the yen on this scenario and what happens if the BoJ changes its mind?

The BoJ may want to generate inflation, but how does it get there with triggering a complete systemic collapse?

Finally, what happens if and when the yen careens off the fiat cliff, and domestic holders of yen-denominated savings flee into either dollars or cryptos? We will find out very soon.

と、ここまで書いてきて、次の事実を発見。この円安は一体いつから始まり、ある待機期間を経て、急激な円安が始まったかといふと、それは2021年9月の今の岸田政権誕生直後から円安が始まったことが、下記の相場地図を見れば判ります。最初に掲示したものと同一ものに、2021年9月のところに矢線とコメントを入れました。

全て欧米の計算づく、アメリカの欲得づくです。頭にくるね。日本人よ、怒り狂へ！それを示した相場地図が、これです。これは上記の対ドル円安に思ふことといふ題名の簡条書き感想文と同じ地図です。





【カフカの箴言3】

岩田英哉

【原文】

Es gibt zwei menschliche Hauptsünden, aus welchen sich alle andern ableiten: Ungeduld und Lässigkeit. Wegen der Ungeduld sind sie aus dem Paradiese vertrieben worden, wegen der Lässigkeit kehren sie nicht zurück. Vielleicht aber gibt es nur eine Hauptsünde: die Ungeduld. Wegen der Ungeduld sind sie vertrieben worden, wegen der Ungeduld kehren sie nicht zurück.

【和訳】

人間の大きな罪にはふたつあって、これらの罪から、すべて他の罪が導き出されるのだ。即ち、短気と怠惰である。短気の故に、人間は、天国から追放されたのだし、怠惰の故に、人間は天国に戻ることはないのだ。ひょっとしたら、しかし、唯一の大きな罪があるだけなのかもしれない。即ち、短気である。短気の故に、人間は追放されたのだし、短気の故に、天国に戻ることはないままなのである。

【解釈と鑑賞】

箴言、寸言、簡潔に要約する能力といふのは、力を要することです。

そのようなことを、外から見てみると楽々とする人間がゐるものです。カフカもそのひとりなのでせう。

日常普段の人間の生活をみて、このようなことを考える。やはり、これはこのまま、このひとの小説執筆能力だと思はずにはゐられません。

この場合は、人間の大きな罪といふ、ある種宗教的な視点から、日常、現実を眺め、さうして、更に短気といふ人間の欠点に焦点を当てて、何故人間の日常が天国から遠いものかを、言はずして語るといふ、相当高度な知恵の働いてゐることを読むことができます。



## 高天原便り

## (3)

## 米粒とエピファニーと古事記とジェームス・ジョイス

岩田英哉

何故こんなに腹が空くのであろうか。今日は4回も飯を食ってしまった。しかも丼飯である。空気がうまく、水がおいしく、米がうまいと、こんなことになるのであろうか。

子供の頃、ある一時期何かの内地からの伝手（つて）があつて家に銀シャリと俗に呼ばれる米がやつて来て食べたことがあるが、本当においしかつた。米粒の一つ一つが文字通りに銀色をして艶光りしてゐた。そして米粒の一粒一粒が立つてゐた。この銀シャリを思ひ出したのは、二十歳の学生の頃一般教養の英語の授業で読んだジェームス・ジョイスの『The Dubliners』（ダブリンの人々）といふ短編小説集を読んだ時に、それも後年になつて世に出てから読み直した時に、並んでゐる英語の語彙の、この作家の選んだ一語一語が恰も粒の揃つた真珠の一粒一粒のやうに置かれて、全く均等の美しさの同じ大きさの粒の真珠が横並びに並んでゐると思つて、心の中で目を見瞠（は）つた時である。ジョイスはアイルランドの産で、アイルランドのカトリックといふ抑々（そもそも）宗教を嫌つた男だが、しかしこの男のいふepiphany・エピファニー〔註〕といふ言葉に感受しまたは文字で書くときに籠める思ひは、非常に深い宗教的なものであることを、これも後年桶谷秀明著『ジェームズ・ジョイス』で知つたからには尚更、このエピファニーといふ言葉を思ふと、私は銀シャリの粒を思はずに思つてしまふ。私たちは同じところをお米の一粒一粒に神様が宿つてゐると教へて来たし、教へられて来た。神は細部に宿る。言葉も同じで、一言一言にも神が宿つてゐて、これを私たちはコト・タマと呼んでゐる。一言一言を一事一事と漢意の文字で著しても、そのやまところの一つで変はらぬのは、言霊がepiphanyだからでありませう。アイルランドといふケルト民族の裔（えい）と日本人といふ混成単一民族の間には何か非常に強く通じ合ふものがある。「庭の千草」とか「グリーン・スリーヴス」とか「ダニー・ボーイ」とか、物のあはれを誘ふ哀切と哀傷の歌がある。

〔註〕

大辞泉「エピファニー」の解説：<https://kotobank.jp/word/エピファニー-676918>

エピファニー (epiphany)

《元来は、キリストの顕現の意》文学で、平凡な出来事の中にその事柄・人物などの本質が姿を現す瞬間を象徴的に描写すること。

Wikipedia：<https://ja.wikipedia.org/wiki/エピファニー> (感覚)

エピファニー (epiphany、古代ギリシア語 ἐπιφάνεια、epiphanea) は、突然の目覚ましい理解の感覚。一般に、この用語は科学的進歩や、宗教的または哲学的発見を説明する際に使



用されるが、問題を啓発によって、新たなより深い観点から理解することができるあらゆる状況に適用される。エピファニーは、心理学者や他の学者、特にイノベーションのメカニズムを研究しようとしている学者によって研究されている。著名なエピファニーには、アルキメデスの発見「Eureka!」や、アイザック・ニュートンの万有引力の法則の発見が含まれる。



アイルランドのストーンサークルを見ると、日本の磐座に通じるものを私は感ずる。もつとも、私たちはこの石の代りに縄を巡らしてシメるのであるが。次の関係がある。

シメる（占、閉、締、絞、緊、x）

もしこのシメるまたはめると記号化していふことの意味を開閉/open・closeの問題として尋ねれば、上のストーンサークルの周囲は垂直の岩柱を円形に立ててめめ、内部は円形にして上の方角は開放ですから、閉と開で物事の均衡の取れた姿になつてゐるのは、磐座に注連縄の様式と、見掛けは一見異なるといへども実質的な様式の意味は同じです。一体何故、私たちは人を殺す時に首をめるのであろうか？さうして、首をめられて殺される人は、何故反対に口を開けるのであろうか？多分、ユーラシア大陸の極西のブリテン島の此のストーンサークルと正反対に位置する日本列島の注連縄と、更にペルーの人々の生きたものを埋葬する時に死体・遺体の周囲に円形に石を囲つて、真ん中に同じく石を積んで塔の如きものを立てる文化とは、一脈も二脈も通じてゐると私には思はれる。海は広いな



大きいな。雑駁な日々の断片的な知識といふ一片のpieceを高天原といふジグゾー・パズルの枠の中に収めて見ると、ブリテン島のストーンサークルはユーラシア大陸を横断して、日本列島に結ばれてゐるが、更に南米のペルーにまで至つてゐるとは。それなら、ロシアにも賽の河原はあるだらうとネットで検索すると、ありました。

## ウラジオストックの石積み



(「ロシアにも賽の河原!? ウラジオストックの海岸に何百もある積み石が奇妙すぎる」：<https://switch-news.com/travel/post-32792/>)

しかし、何故こんなに腹が空くのであろうか？今日は4回も丼飯を食つてしまつた。空気がうまく、水がおいしく、米がうまいと、こんなことになるのであろう。近くのコンビニエンス・ストアに山崎製パンの「レーズン・サンド」だとか一寸とした私のお気に入りを買ひに出る時に通る黒土の畑が美しい。その美しさは写真ではうまく撮れないが、最後に掲げて高天原の様子を、あなたに伝えたい。





ただ道を歩いてみるだけで、土の黒い面積と溝の直線を見るだけで幸せである。このような美しい景色を目にするだけで、道を歩きながら生きてみるよろこびを感じず。そして、時々立ち止まって景色を眺める。

この畑の背景の森の向かうに、森の上に、毎日北浦といふ大きな湖に落ちる夕日が映えるのです。茫然として眺めてみるが、その美しさは言葉にならない。

夜になると、どうも猪が斎庭に現れて、何かゴソゴソとやってみる音がする。



## 縄文紀元論

Topologyで日本人を読み解く

(35)

## 5.36 大祓への第一段落第一行には何が書いてあるのか

## 目次

## I 縄文紀元日本語論

## 1. 日本語と漢語の関係

Intermezzo：何故日本にはキリスト教徒が全人口の1%しかみないのか？

2. 日本語の音義と概念の関係：五十音表とは何か

3. 五十音表を記号化する

4. 日本人の言語宇宙

5. 古事記の宇宙観

5.1 高天原とは何か1

5.2 カミとは何か1

5.3 高天原とは何か2

5.4 日本語の特殊の中の普遍

5.5 海の民のお祭りと超越論の関係

5.6 天照大神とは何か

5.7 月読命とは何か

5.7.1 月とは何か

5.7.2 月読命とは何か

5.7.3 月読神社とは何か

5.7.4 ヤシロとは何か

5.7.5 「鹿座神影図」を読み解く

5.7.6 磐座と注連縄の関係

5.7.7 亀の甲羅とは何か

5.7.8 習合とは何か

5.8 カタカナとひらかなの関係

Intermezzo 2：海風之大刀（アマナギ・ノ・タチ）は一体どんな姿をしているのか

5.9 日本位相習合史

5.10 何故国家は単数または複数の神とともに生まれるのか

5.11 かごめかごめの歌は一体何を歌っているのか

5.12 縄文土偶とは一体何か

5.13 習合といふ漢意をやまとこころで何といふのか

5.13.1 位相史のための紀元の分類

5.13.2 淤能碁呂島とは何か

5.15 縄文土器とは何か

5.16 大祓へを読み解く

5.16.1 何故私たちは御祓を必要とするのか

5.16.2 大祓へに唱へられる「聞こし召す」とは何か

5.16.3 「聞こし召す」前に「しろし召す」がある

(1) 第一段：高天原八百万神大祓ひ会議

(2) 第二段：大倭日高見国内の天津罪と国津罪の分類と大祓

(3) 第三段：大倭日高見国は大祓の結果どうなったか

5.16.4 八の音義は何を意味するか

Intermezzo 3 伊勢神宮とは何か

青字は既論の章、赤字は今回論ずる章、黒字はこれから論じる章

Intermezzo 3-1 伊勢神宮をやまと言葉で読む

5.16.4-1 八の音義は何を意味するか2

5.16.5 誰が「しろし召す」誰が「聞こし召す」のか

5.17 いほりとは何か

5.18 「蟲めづる姫君」はカタカナとひらかなを如何に使ひ分けてみるか

5.19 クラとは何か

5.22 「日本列島位相史」の最新版を

5.23 神武天皇のやまとことばの意味は何か

5.24 世界史の中の神武天皇

5.25 何故私たちは神前で二礼・二拍手・一礼をするのか？

5.27 カミとは何か2：何故カミはカミと呼ばれるのか？

5.28 鹿島神宮とは何か

5.29 神道と宗教と哲学の関係は如何なるものか

5.30 鹿島神宮とは何か2：鹿島神宮の位置と東西南北の鳥居の関係について

5.31 高天原とは何か

5.32 経津主大神とは何か

5.33 「天津国津・東西の神宮とカミ・ヌシの関係」表

5.34 神宮をやまとことばで読み解く

5.35 鹿嶋灘を前にしてある東の一之鳥居の立つ明石が浜に南太平洋から一族・部族を率いて最初に上陸した、その意義では(in this sense)本当のハツクニ・シラス・スメラ・ミコトの本名はなんといふのか

5.36 鹿嶋・香取の神宮はいつから其処にあるのか？

5.37 大祓への第一段落第一行には何が書いてあるのか

5.38 アメの岩屋戸はどこにあるのか

5.39 天照大御神が凹に「さし籠りましき」とある意味

5.40 アメの安の河と安の河原はどこにあるのか

5.41 アメの安の河原に集ふた神々とは何か、どんな神か、そして何故そんなことをするのか

5.42 鹿島神宮を初めてお参りした時に八咫鳥の現れた話

5.43 高天原の生活は如何なるものか

5.44 日高見国と日向国の関係：三浦一族の活動範囲

5.45 日高見国と播磨国関係：ダイダラボッチ

5.46 日本とは何か

待て次号

## 編集後記

今月は、農作業で疲れたので、お休み

差出人:

安部公房の広場

〒182-0003東京都調布市若葉町  
「閉ざされた無限」

安部公房の広場

連絡先: [eiya.iwata@gmail.com](mailto:eiya.iwata@gmail.com)



【もぐら通信の収蔵機関】

国立国会図書館  
「何處にも無い図書館」

【もぐら通信の編集方針】

1. もぐら通信は、安部公房ファンの参集と交歓の場を提供し、その手助けや下働きをすることを通して、そこに喜びを見出すものです。
2. もぐら通信は、安部公房という人間とその思想及びその作品の意義と価値を広く知ってもらうように努め、その共有を喜びとするものです。
3. もぐら通信は、安部公房に関する新しい知見の発見に努め、それを広く紹介し、その共有を喜びとするものです。
4. 編集者自身が楽しんで、遊び心を以て、もぐら通信の編集及び発行を行うものです。